

## 下田市新庁舎等建設候補地に対するパブリック・コメントの実施結果

件 名	下田市新庁舎等建設候補地について
募 集 期 間	平成26年8月7日から平成26年9月5日
担 当 課	施設整備室
意見提出者数	138名 (内 2件提出1名 / 3件提出1名)

### 提出方法及び件数

郵 送	10件
F A X	68件
電子メール	35件
持 参	28件
計	141件

公 表 日 平成26年9月17日(水)  
公 表 の 方 法 ・総務課情報公開コーナーでの閲覧  
・市のホームページに掲載

「下田市新庁舎等建設候補地」に対する意見と市の考え方

意見 1 (計 2 件)

移転絶対条件 3 つは 津波が来ない 財政負担が無い アクセスが良い

敷根を見学しましたが

1. 津波が絶対来ない高さではありません。
2. 財政負担は 23 億円。  
今でも数百億円の借財で、人口激減で十数年後には消滅都市と言われ税収などあり得ません。  
さらに老人が増え社会保障費は激増です。  
こんな状況で億単位の借金など、どうして返済計画がたちますか。
3. 本郷西交差点、本郷交差点、東急前交差点、下田橋交差点がわずか数百メートルにあり常に渋滞です。  
伊豆縦貫自動車道ができたなら新庁舎に入る本郷西交差点は今でも右折は大変な時間ですので、最悪の渋滞交差点になります。

その他 ごみ焼却場の煤煙で職員が肺がんになります。

景観が非常に陰気くさい。

稲生沢中学校

1. 津波は絶対来ない。
2. 引越し費用以外ほとんどかからない。
3. 交通渋滞は全く無い。蓮台寺駅に近い。
4. 景観も良い、空気もきれい。

市長は稲生沢移転は中学から小学校への合併に時間がかかるので、できないと回答しましたが、新築工事にかかる年数と比べ、そんなに時間はかかりません。

すぐ、稲生沢中学・小学校合併手続きに入れば来年は移転できます。

皆さんの意見は自分の家に近い、自分の利益になるを前提に敷根を主張していますが、私は市、市民の全体の長い行き先を考え、私利私欲を捨て意見を具申し上げております。

意見 1 に対する考慮結果等

敷根

1. 東日本大震災における大きな被害につきまして「想定外」という文言が頻繁に使用されておりましたが、今後の災害への対応にあたっては、想定外があってはならないという考えのもと、起こり得る最大規模の地震を想定し、静岡県第 4 次地震被害想定が公表されております。  
新候補地は、この想定における津波浸水想定区域外に位置していますので、津波に対する安全性は高いと考えております。
2. 人口減少社会につきましては、マスコミ等の発表のとおり、本市としましてもそういう場面を想定する段階に入っているということは事実です。  
そのことを踏まえ、できるだけ建築費を抑制し、かつ、財政的に有利な制度の適用で負担軽減を図ることにより、税収減や社会保障費の増につきましても想定したうえで、返済は可能と考えております。
3. ご指摘のとおり、現状では天城方面に向かう車両も海岸線に向かう車両も伊豆急下田駅周辺を通過しなければならないため交通渋滞が発生しやすく、現庁舎位置におきましても国道 414 号が下田駅方向につきましては慢性的な渋滞が発生しております。  
伊豆縦貫自動車道が開通すれば、下田駅周辺に集中する通行車両の分散化により、交通渋滞は解消されると考えております。  
ごみ焼却場の煙につきましては、排出前に煤を除去する等の対策を行っております。  
ダイオキシン対策につきましても国の排出基準値よりも厳しい目標値をクリアし排出しております。  
煙突から排出される煙のほとんどは水蒸気です。  
また、下田市のホームページに一般廃棄物処理施設の維持管理状況を掲載しておりますのでご覧下さい。

参考：下田市 HP 下欄の「暮らし・生活」 左欄「ごみ・リサイクル・環境衛生」

「一般廃棄物処理施設の維持管理に関する情報の公表について」

「一般廃棄物処理施設の維持管理状況」

稲生沢中学校

稲生沢中学校敷地につきましては、中心市街地との関係は希薄ですが、蓮台寺駅に近いことや、国道 414 号からのアプローチが可能なこと、バス路線も確保されていること等のメリットも多く

、候補地となり得るか検討した経過もあります。  
しかし、庁舎移転のために学校を統廃合することはできませんので、学校再編の結果、空いた校舎、土地を利用するということになります。  
また、再編につきましては今後の議論によるところであり、再編計画の枠組みの中で稲生沢中学校の校舎、敷地が不要となるとは限りません。

## 意見 2

新庁舎の建設地については、来庁者のことを考慮し、なるべく旧町内や駅から近くで、想定されている津波の高さをクリアできるようにお願いします。

旧市役所跡地については、現在観光地として駅の近くに駐車場が少ないと思われるので、立体駐車場を建設されると良いと思います。

観光客や地域住民の津波避難タワーとしても活用できると思います。

### 意見 2 に対する考慮結果等

なるべく旧町内や駅から近く、想定される津波の高さをクリアできる場所という条件を満たすため、公表されている静岡県第 4 次地震被害想定における津波浸水想定区域外に位置し、駅から徒歩圏内である新候補地を提案させていただきました。

庁舎跡地につきましては、いただいたご意見も参考に今後検討していきます。

## 意見 3

市庁舎建設につきましては、市長はじめご担当者の皆様には、そのご苦勞に対しまして、敬意と感謝を申し上げます。

さて、建設予定地ですが、新候補地の「敷根地域」に賛成します。

私の新市役所建設の希望は

- 1 安全な場所。
- 2 中心市街地からあまり離れないこと。
- 3 建設費が安いこと。

です。

いくら大きな地震や津波が来るからといって、要塞みたいな建物は必要ないし、余分な施設(図書館とか)を併設して、大きな建物にして欲しくないと思います。

コンパクトな市庁舎で駐車場はしっかりと確保してくれたら良いです。

大切な税務の資料や戸籍の資料等、重要な資料は他の場所にしっかりと保存していただきたい。

東日本大震災の後、建物が破壊されたことにより、税と戸籍が安全な場所にバックアップされていなかった市町や行政の復興が遅れたそうです。

### 意見 3 に対する考慮結果等

ご意見を踏まえて、今後計画を推進いたします。

新庁舎につきましては、津波浸水想定区域外に建設することにより耐浪化のために堅牢な構造とする必要はなくなり、通常の耐震性能を満たせば問題はないと考えております。

図書館につきましては、下田市新庁舎等建設基本構想にお示ししておりますとおり、市庁舎と同様に老朽化が進み耐震性も劣り利用者の安全確保の面から建替えが急務となっております。

文部科学省が示す基準により下田市の人口規模から算出される望まれる図書館面積は、1,600 m<sup>2</sup>程度となりますが、市庁舎との合築により共用スペースの共有化を図り床面積 1,200 m<sup>2</sup>とすることが可能となります。

戸籍や税等の電子データにつきましては、現状でも浸水の恐れのない場所にデータをバックアップするシステムが稼働しております。

仮に被災したとしても、前日のデータが保存されている状態となっております。

## 意見 4

私のような老人は足腰が弱いので、平坦な場所に建てることはとても良い選択だと思います。

しかも、今回提案された場所は旧町内にも駅にも近く、何より津波の浸水域外にあり、国からの補助が受けられるとのことで、財政的に緊迫している下田市にとってこんなに良いことはありません。

私は行く先は短いですが、現在の子供達や若い人達に多大な借金を残すことは避けなければなりませんので、少しでも安い予算で建築が進むことを希望します。

#### 意見 4 に対する考慮結果等

ご意見を踏まえて、今後計画を推進いたします。

次世代に多大な負債を残すことがないようできるだけ建築費を抑制し、かつ財政的に有利な制度の適用により負担軽減を図ります。

#### 意見 5

津波想定区域内に建設すべきではないと思う。

高台に建てた方が良いと思う。

#### 意見 5 に対する考慮結果等

敷根民有地案につきましては津波浸水想定区域外であり、下田駅からも徒歩圏内であることから適地であると考えております。

#### 意見 6

東日本大震災において、我々は多くの教訓を学び、そして、また大自然の力の前に人間の無力さを思い知らされました。

今回、下田市は海拔 7 メートルの敷根民有地を庁舎建設の最有力候補といたしました。

その理由は二つあるらしい、津波想定浸水域外であることと、その事業費の安さにあるとのこと。

しかし、海拔 7 m に津波が来ない保証はない。浸水域外といっても浸水域と何ら変わらない。所詮は想定であって、首長たる者は常に最悪のシナリオを想定して万全を期さなければならないものを、想定外のあの教訓はもう忘れたのですか。

次に、この降って湧いたような敷根民有地は事業費が他よりも安いと強調しているが、全く疑わしく信用できないものである。

こんな危険な場所を選び被災すれば、結局はまた、市民の血税を注ぎ込むことになり「安物買いの銭失い」・「安物は結局は高物」となることは必定であります。

市役所はその街の顔であり頭脳であり心臓であります。当然その建設にふさわしい場所というものがある。現段階で最有力というこの場所は、海拔・敷地の向き・地形（傾斜地）・地景全てにおいて不適當であり認められません。

市役所は、多々ある機能の中で、災害発災後は 72 時間の初動体制が一番重要な点で、災害対策本部、広域避難所、また自衛隊の災害派遣、ヘリポート、災害ボランティアの受け入れ等、全てが敷根公園が中心となる。

こんな場所では何もできません。

もっとも災害対策は敷根公園で行うと考えているようだが、庁舎が下にあっては職員もやりづらいだろう。ましてや官民一体となった災害対策本部が求められるのである。

その場所に庁舎が安全にあることが大前提であります。

前市長の決定したものを白紙に戻した手前、敷根公園には意地でも戻れない一念のみで新庁舎建設を進めているのなら、市民不在の妄挙・暴挙であり許されないことである。

もの言わぬ静かな大多数の市民は、安全・安心そして下田にふさわしい場所に建設を願っているものであり、一部の少数派の意見に左右されないことである。

現時点では前市長の敷根公園がベストであります。

新聞報道を見ての限りであるが、市幹部職員は「はっきり言って、もうこれしかない」と苦しい胸の内を吐露したとある。

我々の庁舎がこんな苦渋の選択によって決められて良いのでしょうか。

穿った見方をすれば、選択肢の中に、意地でも前予定地には戻せない暗黙の了解でもあるかのごとき発言である。

該当地区の住民には大変に失礼で申し訳ないが、こんな場所に決定するなら、むしろ建替え自体を白紙に戻していただきたい。現状の庁舎で頭を冷やしてください。

人口減少、少子高齢化社会、学校再編、消滅市町村、自治体を取り巻く環境はここ十数年で激変するでしょう。

東海地震には、もう少し余裕のあることをただ願う事です。

中心市街地と高台安全派との両者に配慮した折衷案と考えているようなら、それこそ中途半端な最悪のシナリオであります。

中心市街地（旧町内）だけが下田市ではありません。

下田市全体の問題として誤った方向に進まないことを強く望みます。

## 意見 6 に対する考慮結果等

起こり得る最大規模の地震を考慮した津波浸水想定区域から外れておりますので、津波に対する安全性は高いものと考えております。

津波浸水想定区域外に建設する場合は、耐浪化のために堅牢な構造とする必要はなくなるため、敷根民有地案や敷根公園案は現在地等と比較し建築費用は抑制されます。

敷根公園案につきましては、庁舎建設費以外に公園整備費、職員駐車場整備費等の費用が必要となるため敷根民有地案の方が総事業費は安くなると考えております。

平常時は下田駅に近く、災害発生時には拠点となる敷根公園にも近く、公園に展開する関係機関との連携も取れる場所です。

伊豆縦貫自動車道の敷根インターチェンジ予定地にも近接しており、将来的には伊豆縦貫自動車道により稲梓、稲生沢との連携も取ることができると考えております。

## 意見 7

市役所移転問題において議論をより深めてもらいたい点は下記である。

- 1 将来の市人口動態を考慮した、最適規模の建造案を提示してほしい。

下田市の身の丈に合った建築物はどういうものか。それに防災の要素を加えるとどうなるかという案を示してほしい。

建築物の寿命は 5-60 年であり、改築費や維持費のかさむ 4 層ビルなどの建設は極力避けるべきである。

- 2 人口減に伴う下田市の行政的地盤沈下への対応が考慮されていない。

警察署、裁判所、法務局はじめすべての官庁の出先機関が遅かれ早かれ改築の時期に入る。

またメディカルセンターも 5、60 年後には改築を迫られる。

これらも防災を考慮すればいずれ高台移転をせざるを得ない。

これら諸機関を下田市につなぎとめなければ、将来の下田市の根底は揺らぐ。

下田市はこれらの高台への誘致を積極的に陳情すべきである。

それが高台にある新市役所近辺であればどのような場所であっても、用地確保は国・県の災害対策予算からみて比較的容易ではなからうか。

以上を考慮した私見は下記である。

- 1 駅を含め現在地付近での建設を採択しないのは、論理上当然の判断であり評価する。

ただ、現時点まで時間を空費しているので、今後の対応は迅速に願いたい。

- 2 敷根民有地案は駅周辺よりはベターであるが、敷根公園案に比し明らかに劣る。

よってこの案には賛成しがたい。

- 1) 平地部分の交通アクセスが全く悪く、しかも完全な非浸水地ではなく、地盤も弱い。

このため折角の移転なのにさらに浸水対策をひきずり、建物のかさ上げ費用・液状化対策などのコストを算入せねばならないのは無意味である。

また地形の制約から、屋上に正面出入り口設置、ならびに屋上の駐車場化など構造上余計な建築費用がかかり、完成後もエレベーターなどの維持コストもかかる。

坂道を嫌う歩行来庁者にとり平地の道路は極めて狭隘である。

- 2) 敷根公園より市街地に近接しているのが地理的な第一のメリットであろうが、車社会にあっては大きな差異はない。

今後の老人化社会においては中途半端な距離のため、歩行での来庁は明らかにきつくなり、むしろ敷根公園へのシャトル・町内のごく小規模な出張所設置の方が市民の利便性が高い。

- 3) 周囲から孤立しており、この地域の発展性が全く期待できない。

またごみ処理場が直近の上方にあり、この健康被害のアセスメントは十分してあるのか。

- 4) 折角移転しても周囲の浸水のため市役所機能の不全化の懸念は残るし、5-60 年後には解体せねばならない。

この場所での解体・新築費用には今回をさらに上回る費用が必要となる。

またこの場所の他用途への転用は難しからう。

すなわち長期的視点から維持コストが極めて高すぎる。

- 5) 総合評価では当地域の評価は、他はすべて となっているが、上記指摘のように何故このような評価になるか大いに疑問である。

- 3 敷根公園案

- 1) 市街地から離れすぎるとの議論があるが、要は対応策があるか否かである。

十分な駐車場確保や、小規模の出張所などで市民の便宜性は確保できる。

さらにシャトルが検討できればそれに越したことはない。

こども園送迎バスの共用なども一案である。これらの費用対策は後述する。

- 2) 庁舎建築費が敷根民有地案と同額の23億円となっているが、納得できない。

まさか敷根公園付近に民有地案と同じく、屋上駐車場や液化化対策を施した4階建てビルを建てるナンセンスな構想ではないとは思いますが・・・。

でなければ、民有地案を不当に安く見積もっているか、敷根公園を高く見積もっているかであろう。いずれにせよ、精査すれば民有地案よりかなり圧縮できると思う。

さらに、新庁舎は用途から考えて小規模な重要部分を除いては平屋、または2階建てのプレハブ工法で十分、耐久寿命は鉄筋ビルと大差ない。

また将来の増改築も安く済むし、駐車場を隣接すれば将来は一時移転せずに順次改築が可能、圧縮した建築費を1)項の諸費用に充てればよい。

- 3) また図書館などの文化施設は無理に一緒にする必要はない、防災上必要と思われる機能を中心に市役所に統合すればよい。

市民生活に密接する文化施設やスポーツ施設などは高台に置く必要はない。

これらは現市役所の跡地利用や将来発生する市民文化会館の改築、小学校の移転などを視野に入れてやがて整理統合を図ればよい。

この処置により生ずる高台の余裕地は諸官庁誘致の一助にしたらい。

- 4) 市役所の旧町への経済波及効果の議論は、すでに終止符がうたれたと思う。

津波は100-150年周期であり、浸水地市街地に完璧な防災機能を有する建造物を建ててもこの周期の間に1-2回の建て替えを迫られる。

経済波及効果議論は下田町内の地勢の実態から言って、ないものねだりの不毛な議論である。むしろ将来的に諸官庁と同じ地域となることで、公園付近の発展を促し得る。

また、耐用期限が迫ってくるごみ処理場は移転させ、諸官庁などの移転先とすることも考慮すべきである。

- 5) 旧庁舎解体費用が敷根公園は12億円、民有地は5.5億円と差があるが、この明細を公表すべきである。

また、たとえ費用がかかっても将来的にそろばんが合えば無駄遣いにはならない。

たとえば駐車場は費用をかけても極力広く確保すべきである。

日常の用途に加え非常時の市民避難施設、自衛隊等の駐屯地、救護施設の設営などに転用できる。これは無駄な費用ではなく敷根民有地に移転しても多かれ少なかれ必要になるものであろう。

また、低層建築のために追加的に必要となる敷地の確保も、庁舎のプレハブ化によりねん出できるかもしれない。

- 6) 本案は都市公園法への対応等に時間が足りないことがネックと聞く。

しかし、これは市長交代時にはすでに十分わかっていたことである。

これが時間切れで敷根公園案が実現できないならば、まさに行政は政治的責任を問われてもやむを得ない。

早々に敷根公園案を決め、全力を挙げて関係機関への陳情に没頭すべきである。

災害対策の大義の前には都市公園法の改正は小事であり、市長・行政当局の政治力に期待する。

- 4 最後に本件に関する下田市の情報公開の在り方につき、若干の苦言を呈したい。

去る1月31日の説明会では各候補地と費用が示された。

しかし、この時は非浸水地に対する緊急防災・減災事業債にかかわる交付税の存在が明示されなかった。このため現在地・駅合築と高台移転の事業費の比較が正当に判断できない結果となった。

交付税の存在は以前からマスコミにも報道されているので当局はわかっていたはずであり、このことは駅合築に世論を誘導するものであったとの誤解を受けてもやむを得ない。

また、今回も交付税につきマスコミから指摘を受けたり、上記事業債の関係から9月決定を急ぐためか、あえて民有地案の優位性を示した資料作りを感じさせたり、審議会の機能が活用されていないとも聞くし、とにかく行政当局が一定の方向に結論を突き進める手法を強く感じる。

また、このパブリックオピニオンも締め切りは9月5日、市としての最終決定は9月末と聞く。

1か月足らずで民意を十分に反映できるとは信じがたい。

これでは民主主義に基づく民意の聴取とはいえず、単なる不満のガス抜き手法であると言われてもやむを得ない。

上記が私の危惧であれば幸いであるが、「ふるさと下田」を愛するがゆえに、あえて失礼を顧みず一言した次第である。

## 意見7に対する考慮結果等

身の丈にあった計画案を皆様にお示しできるよう、事業を推進いたします。

人口減に伴う下田市の行政的課題に関しましては、新庁舎の位置の如何に関わらず重要な問題ですので全庁的な課題として取り組んでいく考えです。

### 敷根民有地案について

交通アクセスにつきましては、市道敷根線の幅員が狭いことから車両の出入りにつきましては敷根1号線からとするものです。

敷根線につきましては、歩行者の利用は想定されますので、周辺住民のご意見を伺いながら安全対策を検討していきます。

完全な非浸水地ではないというご指摘につきましては、敷地の一部に0.01m～0.30mの浸水深が想定される区域が含まれることを懸念されてのことと思われるのですが、建物の配置計画により避けることも可能ですし、万が一の場合でも0.30m以下の深さであれば基礎の嵩上げ等も低予算で対応可能と考えております。

地盤につきましては現段階では特に弱い、あるいは液状化の危険性が高いという認識はありません。

屋上駐車場に関しましては、一つの例としてご説明させていただいているものであり、決定しているものではありませんが、専門家への聞き取りでは、屋上駐車場により、建築費が大きく変動するものではないと確認しております。

敷根1号線からのアプローチにつきましては、経済的に最も有利な方法を検討していきます。

屋上駐車場方式を採用しなくてもエレベーターは必要な設備です。

車社会であっても市街地に近いことは有利であり、公園案より劣るものではないと考えております。

焼却場につきましては有害物質等の排出による健康被害等を防ぐための設備を備え適切な運転管理を実施しております。

周囲の浸水による機能不全につきましては、敷根1号線を使用することとしておりますので問題はないものと考えております。

### 長期的維持コスト

比較した4カ所のうち、津波に対する安全性、経済性から判断すると敷根民有地案及び敷根公園案が優位であると評価しました。

敷根民有地案と敷根公園案を比較した場合は、公園案につきましては庁舎建設費以外に公園整備費、職員駐車場整備費等の費用が必要となるため経済性の面で劣ること、中心市街地や下田駅からの距離等利便性の面でも劣ることから敷根民有地案を適地としたものです。

### 敷根公園案について

シャトルバスの運転経費や出張所等の維持費につきましては、継続的な支出になりますので、市街地にできるだけ近い場所に建設することにより、これらの方策を実施しない方針であります。

新庁舎等建設基本構想でもお示ししておりますが、敷根公園案につきましても4階建ての庁舎を計画しております。

どちらかを不当に安くあるいは高く見積もっているということはありません。

精査により建設費の圧縮の可能性があるのは民有地案も公園案も同様です。

図書館につきましては、市庁舎と同じく耐震性に劣り老朽化も進んでおり建替えは急務となっております。

合築により共用スペースの共有化による建設経費の削減等を図ります。

また、費用面だけでなく庁舎との合築による業務の効率化や市民サービスの向上につきましても、合築のメリットを生かした方策を検討していきます。

市役所が現在地周辺にあることによる経済波及効果につきましては疑問視するご意見や、跡地利用方法によっては市庁舎よりも賑わい創出に繋がるというご意見も伺っております。

敷根公園周辺につきましては平坦な土地が少ないため、他の官庁の誘致や付近の発展の可能性は低いと考えております。

旧庁舎解体費用につきましては、両案とも1.2億円を見込んでおります。

敷根公園案につきましては、その他に土地造成費1.2億、駐車場（職員用含む）整備費4.3億、設計監理費1.8億（公園設計等を含む）、公園用地費0.2億、公園整備費2.5億、引越し費用、支所的機能初期投資費用等が0.8億として計12億円を見込んでおります。

敷根民有地案につきましては、旧庁舎解体費用の他に土地購入費1.1億、土地造成費1.1億、設計監理費1.4億、引越し費用等が0.3億として計5億円を見込んでおります。

初期費用が増大しても将来を見据えて良いものをとという考え方もありますが、子供達の世代に多大な

負債を残すことがないようできるだけ建築費を抑制し、かつ財政的に有利な制度の適用により負担軽減を図ることも重要であると考えております。

平成 24 年 4 月当時、敷根公園に決定した時点では津波想定に関する情報量が少なく、高さ 25.3m の津波の脅威を避けることが可能で市街地から比較的近い場所という条件の中、公園用地を候補地としたものです。

当時は都市計画上の手続きが困難であり、時間を必要とする状況であってもやむなしという考えでした。

その後詳細な想定が明らかになったことに伴い、新たな候補地を再検討することになったものです。

1 月 31 日の説明会におきまして総事業費のみ説明させていただいたのは、財源の説明をしなくても 3 候補地の経済性の比較が可能であると判断したためです。

市の内部からも説明不足であるとの意見もあったため、7 月 29 日の説明会では財源や借入金の返済につきましても説明させていただきました。

新聞報道での指摘につきましては、地方交付税制度につきましてもの見解の相違によるものであり、敷根民有地案が経済的に有利であることに変わりはありません。

#### 意見 8

7 月 29 日の説明会ではいかにも敷根民有地案が安く最適との説明だったが、新聞報道で指摘を受けて、慌てて訂正するという失態を犯してしまった。

突然に位置を決めてから、ここしか建設地は無いのだという手法で押し切るという下田市の姿勢は認められません。

こうなれば、再び白紙に戻して市民の意見を聞き再考するか、市民投票を行い市民全体の意見に耳を傾けるべきだ。

10 年後、20 年後の未来に胸を張ってここが下田市役所だといえる場所に建設しようではありませんか。

個人的な場所の提案としては、下田中学校のグラウンドに建設してはどうか。

プールと中学校の間に道路を作りグラウンドに進入する。

生徒は敷根グラウンドを利用する。市の負担は軽いではないか。

#### 意見 8 に対する考慮結果等

新聞報道での指摘につきましては、地方交付税制度につきましてもの見解の相違によるものであり、敷根民有地案が経済的に有利であることに変わりはありません。

今回の候補地決定までには説明会を開催してご意見を伺う等、強引に決定しているわけではありません。

都市公園として管理している敷根公園を下田中学校の生徒が日常的に学校施設として利用することはできません。

#### 意見 9

まず、現在地案、下田駅合築案を考えた時点で補助金が出ない事を事前に下田市は知らなかったのか、突然下田駅合築などは、話題を振りまくだけの市長の演技ではなかったのか。

敷根民有地案では津波に重点を置いて考えているようですが、その前に地震が来るのですよ、あの崖地で道上からの崩土を考慮してあるのか。

考えていないならば、擁壁の工事費、用地買収費が発生し財政負担が増えると思われるが、先日の広島土石流を TV で見ると、敷根は急傾斜地崩壊危険箇所に含まれないか十分に検討すべきだ。

平成 23 年の市民アンケートでは市庁舎への来訪頻度は平均年 4 回という結果で、下田駅からの利便性を強調しているが市民の来庁頻度は低く、敷根高台でも不便は感じないだろう。

白紙に戻すという市長のパフォーマンスにより無駄に 2 年も経過した。

この 2 年間に敷根公園の都市計画の変更が可能だったのではないか。

それとも市職員に都市計画を変更する能力の人材が無かったのか。

#### 意見 9 に対する考慮結果等

##### (考慮結果等)

緊急防災・減災事業債の適用につきましては、平成 26 年度から 28 年度までの 3 年間の期間延長等が決定したのが、国の平成 26 年度予算編成の段階であり、それ以前の段階では緊急防災・減災事業債の適用は考慮しておりませんでした。

斜面につきましては、建築が可能となる擁壁等の対策費を見込んでおります。

来庁頻度の問題は別にしても、下田駅からの利便性は近い方が有利と考えております。

都市計画の変更事務手続きにつきましては、仮定の話ですので回答は差し控させていただきます。

#### 意見 10

敷根公園への建設を望みます。

現在の計画されている敷根地域は、津波に対して 100%安全とは言い切れない。

いざという時に、公的機関が必ず機能しなければ何の意味もない。

大丈夫だろうで敷根地域に建設し、もし災害時に機能しなければどうするのか。

様々な評価方法はあると思うが、万が一の時のことに重点を置いて考えるべきではないかと思う。

東日本大震災の時も、役場が機能している地域とそうでない地域では、治安や混乱のレベルが全く違っていると聞いている。

以上のことから、課題はあるだろうがそこは順次クリアーしていただき、津波に対して100%安全で安心できる敷根公園への建設を望む。

意見 10 に対する考慮結果等

津波に対して安全な場所という判断基準につきましては、公表されている津波浸水想定区域外か否かを基準としております。

敷根民有地案は、災害時にも機能する庁舎が建設可能な候補地であると考えております。

#### 意見 11

敷根民有地に近接する土地の所有者が 〇〇の土地だとの噂がありますが、市長と 〇〇に利害関係があるのではないかと疑心暗鬼になります。

明確な回答をお願いします。

意見 11 に対する考慮結果等

近接する土地所有者との間に利害関係はありません。

#### 意見 12

新庁舎は下田駅や文化会館の辺りが良いと思いましたが、予算の都合という事であれば敷根民有地案が良いと思います。

敷根民有地案にした場合、新庁舎建設よりも先に街中に避難タワーを作るべきだと思います。

街中の人は高台も遠く、毎日不安な思いで暮らしています。

意見 12 に対する考慮結果等

ご意見を踏まえて、今後計画を推進いたします。

本年度中（平成 26 年度）に策定予定の津波避難計画に基づき対応していきます。

#### 意見 13

高齢化社会などの言葉が歩き出す前の時代、元気で長生きしている方々はどのような生活習慣があるのかと長寿の方々にお話を伺った事がある。

現在その方々と横並びになった私には、高台の敷根公園では遠く、歩いて行く事もできなくなるし、時間も要して不便である。

1. 駅近く、交通の便の良い場所をお願いしたい。

理想としては、津波避難ビル( 駅舎の上など観光客も安心 )を兼ねて現在地が良いのではと考えている。

1. 現在候補地の一つでもある敷根民有地( 案 )があるが、交付税等の大きな問題があり、上記案に無理があるとすれば、やむを得ない。( それでも遠いと思われる )

1. 別案として、やはり駅近くで平坦な稲生沢中学校辺りも可能ではないかと提案したい。

( 各地区に区役所なるものが必要ではないでしょうか )

意見 13 に対する考慮結果等

現在地のデメリットを解消しつつ、メリットである利便性につきましても考慮した候補地が敷根民有地案ですので、ご理解いただきたいと思います。

支所につきましては、近隣の市町におきましては、町村合併に際し、旧町村役場を支所として運用している事例が多々見受けられますが、支所に対応可能な業務が限定されてしまうこともあり、費用対効果の面から徐々に廃止されている例もございますので、地区ごとに支所を設置することは考えておりません。

#### 意見 14

各候補地には一長一短があり、一箇所に絞るのは至難の業と思われる。

市役所新庁舎建設に関心がある人は少なくない、しかし、将来にわたっての市全体の問題として大きく俯瞰

的に捉えようとしている人はどれだけいるだろうか？

ある程度はやむを得まいが、それぞれが自分と自分の周囲の利害関係を優先し過ぎているように思う。

公の問題を決定するのにやや感情的にさえなっているのも問題だ。

東日本大震災の恐怖があったばかりで、下田市は大規模津波の襲来も懸念される。

防災に強い市役所の建設問題には一刻の猶予もない。

候補地が二転三転するのはよくない。

私自身は将来の合併や伊豆縦貫自動車道の完全開通、更に広大で安価な土地利用等を考えれば、南伊豆の中心に位置する稲梓地区が適当と考えるが、あえて強調するものではない。

市当局には大所高所の視点から問題を整理し、最大公約数的な最適地を示すことで事態の收拾を図って欲しい。

強力なリーダーシップでどんどん前へ進めるべきである。

下田市は賀茂郡、伊豆半島を牽引する重要都市である。

なお、建物に関して言えば、市役所は機能を優先させ、必ずしも立派なものでなくてもよい。

役所職員が市民のために十分働きやすい環境を整えて貰いたい。

出された意見はどの意見も貴重である、それを認めたいうえで、全てに耳を傾けていたのではいつまで経っても解決しない。

私は安心、安全の市民生活を重視し、防災面にウエイトを置いた案を支持したい。

はっきりした自分の案はないが、最終決定は市当局に委ねたい。

全ての組織はそれを構成する「人間」によって決まる。私はその人間を信じたい。

#### 意見 14 に対する考慮結果等

将来的に賀茂地区の市町が合併した場合を想定し、稲梓地区に新庁舎を建設すべきというご意見は少なからずいただいておりますが、現在のところ合併の構想もない状況です。

合併計画が具体化した段階で、新市の庁舎位置につきまして検討することとなります。

現段階では、下田市の新庁舎等建設位置は敷根民有地案が適地と考えております。

#### 意見 15

前市長（石井氏）の任期中決定した原案を破棄し、すったもんだではらちあかない。

この分では新庁舎など何時完成になるのか疑問だ。

決まった事を覆す様な市政では先が思いやられます。

#### 意見 15 に対する考慮結果等

平成 24 年 4 月当時、敷根公園に決定した時点では津波想定に関する情報量が少なく、高さ 25.3m の津波の脅威を避けることが可能で市街地からなるべく近い場所という条件の中、公園用地を候補地としたものであり、当時の判断を否定するものではありません。

その後、詳細な想定が明らかになったことに伴い、新たな候補地を再検討することになったものです。公園案のデメリットである利便性等を補いつつ、津波の脅威のない敷根民有地案にご理解をいただきたいと考えております。

#### 意見 16

##### 新庁舎建設のための基本的根拠

庁舎の果たす役割を大前提に考えたい。その役割とは、大きく次の二点である。

1. 下田市民へのサービスが恒久的に続けられること。

下田市民が日常生活上いつでも、どんな事情でも相談に乗り支えになる職員が勤務し、働きやすい庁舎であること。

2. 安全性が確実に保たれていること。

市民の生命・財産が守られることを最優先に考えたい。

永久保存的な重要書類の管理が確実に保持されていること。

更には、災害時市民を守るためのセンターとして指導的な立場が維持され、その役割が果たせられること。

このようなことを大前提に考えて、候補地を決めていきたい。

この 1 と 2 の両者を満たす条件としての候補地として、「現在地」「駅ビル」は、どうしても難しい。

上述 2 の安全性の一点で除かざるを得ない、となると「敷根公園」になる。

しかし、1 のサービスという点で、難点がある、庁舎への行き来に支障が出る。

庁舎では、サービスを受けたい方は「どうぞいらっしやい」。

市民特に年寄は、やっとの思いで辿り着くという光景が考えられる。  
互いに信頼関係を持って庁舎との交流という図から程遠い、庁舎の役割 1 から考えて難がある。  
従って、結論は「敷根地域」となる。  
しかし、津波浸水想定地域に接しているという点で、ベストではない。  
ただ市民の生活圏が依然として不安定な地域にあることは事実である。  
その不安定な中で生活することを踏まえての新庁舎建設であるため『仕方がない』ということ『止むを得ない』と考えるのである。  
ただ、その上で最善を尽くしたい。  
「敷根地域」に持って行くには、いくつかクリアしたい点を考えていくということである。  
一つは、建物の基礎を大きく嵩上げすること、もう一つは市民に安心感を持たせ得る強靱な建物にする。  
蛇足・・・理想を言えば  
孫や未だ見ぬ代々（末代）までを考え、「敷根公園」にドカンと建設。そしてその後、何十年何百年後には、その周辺の高台に街づくりが成されていくような絵を描いていたが、どうも現実的ではない。

#### 意見 16 に対する考慮結果等

新庁舎等に求められる要件をバランスよく検討した結果、敷根民有地案を適地と考えました。  
建設に当たって解決すべき課題はありますが、一つずつ解決して市民の皆様へ納得いただける計画をお示しできるように事業に取り組みます。

#### 意見 17

先日行われた、説明会に参加し、説明を聞きました。  
津波震災区域外に建設すれば、補助があるとのことで、それを期待して、今回提示された場所に建てたいのかなと思いました。  
しかし、提示が、最初に言明していた、3つの中の一つではなく、全く新しい場所でもあり、市民に周知するには急ぎます。  
今回提示された場所に行ってみましたが、ここで、津波、本当に大丈夫なのと思われるような場所でした。  
説明では、最新の津波予測では、区域外になっているようですが、そうだとすると、津波の先端部分だと思われる、東日本の震災の時、こういうところには、押し流された大きながれきがたまったことをみると、震災後、早い対応に難があると思われます。  
また、最近の、大規模災害を考えると、本当にこの場所が、津波で大丈夫なのか、心配になります。  
新庁舎建設は、必要だと思いますが、大変莫大なお金のかかる事業です。  
下田の人口の減少、税収の落ち込みなどが、予想される中での建設であり、今後のことを考えても、失敗が許されない事業だと思います。  
津波をはじめとする災害にも耐え、市民の命と財産を守る庁舎であってほしいものです。  
そこで、補助金のために、あせって、ことを急ぐことの無いようにしてほしいものです。  
市民への説明や周知は、全然足りません。この場所が、最近の思いもよらない災害にも絶対に耐えられる場所であることが、専門家の見解でもお墨付きが得られることが絶対必要な事業です。  
ほんの少しでも心配が残るなら、思い切って（補助予算が見込まれなくても）この場所を考え直してください。最初の3案の中の、敷根もあるでしょう。  
稲生沢地域もあるでしょう。また、発想を転換して、災害時に強くなければならない部署は高台に、その他の部署は、現在地にというような分庁方式などどんなものでしょうか。  
大変お金のかかる事業です。全市民の納得が必要です。失敗は許されません。  
少しでも不安がある状況なら、考え直す勇気が必要です。  
時間がかかっても、慎重に検討し、全市民に周知してほしいものです。

#### 意見 17 に対する考慮結果等

財政的に有利な交付税措置の適用の可否だけで候補地としたものではありません。  
現庁舎につきましては、本館、西館、別館の3棟の建物で構成されておりますが、施設の老朽化が顕著であるとともに、3棟のうち西館につきましては耐震診断の結果、耐震性能がないと判定されており、残る2棟につきましては、築45年以上であり、構造計算書の散逸等により耐震診断すら困難な状況です。現状では、開庁時に大地震が発生した場合、津波の前に地震による建物の崩壊により、来庁者や職員の生命が脅かされる恐れがあり、防災拠点としての機能不足が著しい状況です。  
新庁舎等に求められる要件をバランスよく検討した結果、敷根民有地案を適地と考えました。  
このパブリックコメントの公表や今後開催予定の市政懇話会等を通じて皆様のご理解を得られるよう努力します。

## 下田市は観光立市

自然環境に恵まれた下田市といえども「自然環境を守る」という言葉を言っていればお客様に来ていただけ  
た良き時代から、今や無策の「行動をしない言い訳」の言葉にしか聞こえない時代になりました。

東京オリンピック招致のスピーチで「おもてなし」という言葉が脚光を浴びました。

まさにこれからの時代、お客様の求めているものは「真のおもてなしの心」であろう。

観光業に携わる人が、そのお店・ホテル・民宿・食堂・観光船等々・・・。

お金を借りてでもまず新しくしたいと思うのは、その建物・乗り物のどこであろうか。

最優先に考えるのはお客様の事であり、自分や家族の事を考えるのは資金が余った時であろう。

お客様の事を最優先に考えるのが、家の繁栄であり、それが家族の求める幸福になることが万人共通の認識  
であろう。

公金を使って下田市新庁舎を建設する以上、それが下田市民の求める幸福に、より貢献する下田市新庁舎で  
あるべきというのが全下田市民の願いであろう。

その候補地選定は「観光立市の繁栄」を左右する最重要課題と認識すべきであろう。

「お客様最優先か」・「下田市民最優先か」・「条件付き資金補助を考えるか」・「安全（津波、液状化等々）最  
優先か」等々、数ある意見の中から最優先するであろう意見は、観光業者であったならば、迷わず「お客様  
最優先」であろう。

将来にわたっても「観光立市」で繁栄して行こうというのであれば、下田市全体を観光の家（乗り物）と考  
えた場合、お金をかけたい場所は「お客様ルーム（玄関）」であろう。

下田市においての「お客様ルーム（玄関）」は伊豆急下田駅であろう。

伊豆急下田駅が移動可能なら別だが、不可能であるなら、下田市新庁舎は現在地か伊豆急下田駅地内にする  
のが、他市町とは違う「観光立市」の「下田の大義」に沿った選定であると思います。

## 下田市の常識は世界の非常識にしてはならない

もしも下田市新庁舎が他候補地に建設された時に、伊豆急下田駅に訪れたお客様が市役所跡地を見て「どん  
な建物があったんですか・・・？」と質問された時に「あの空地は下田市役所があったんですが、津波の危  
険地域ですので高台に移転しました。」と答えるのであろうか。

それは、先日の韓国での観光船がお客様を顧みずにいち早く逃げ出す船長の姿とダブって、お客様の脳裏に  
映像として浮かぶのではないか。

「観光立市」の下田市を観光船と見立て、下田市民がその乗組員という発想をするのは無理があるでしょ  
うか。

パンツ姿で逃げ出す船長が頭に浮かぶようなイメージの下田市にしたならば「下田市の観光の明日はなくな  
る」であろう。

下田市民全員が乗組員的なおもてなしの心をもてるよう「安心・安全はまずお客様優先！」と自信を持てる、  
一目でお客様優先の宣伝看板・おもてなしの心のランドマークになるような新庁舎の建設を切に望みます。

## お客様が立ち寄る新庁舎

新庁舎の中には、お客様が必ず見たい観光コーナーを十分なスペースで設置してもらいたい。

例えば「30 カラーズ」を一つずつ映像化して、四季折々の自然をまず映像で見てから目的地を堪能してい  
ただくとか、吉田松陰が弁天島から黒船に向けて漕ぎ出す時の命がけの再現映像を見ていただいて、その「国  
を思う」熱い心を旅の思い出とともに持ち帰って頂けたら、その熱い心は日本中（世界中）に広がるであ  
ろう。

また、「北方領土返還マラソン大会」・「黒船祭」・「下田太鼓」等々の映像を、下田に行かなければ見るこ  
とのできない下田市独自のオリジナル観光テーマパークとして、お客様の心に焼き付く（響く）であろう。

## 交付税をあてにせずに自力で税収を増やそう

下田市を国から任されている幸福にあぐらをかかずに、交付税をあてにする意見が出るようならば、自然保  
護も大切であるが、自然とのすみ分けを考えて、日々降り注ぐ自然エネルギー等々の有効活用を実現させれ  
ば、新庁舎建設費以上の税収増が可能であろう。

吉田松陰の心の息吹を後世に伝えて、お客様にその息吹を自然と共に持ち帰りいただく役割の下田市で  
す。

下田市民の頭脳は下田市庁舎に集結していると信じています。

時代遅れのエゴの議論に時間を浪費せずに、お客様のため・全下田市民の幸福のために最優先した「下田市新庁舎等建設候補地」の議論を期待します。

#### 意見 18 に対する考慮結果等

下田市の主要な産業が観光業であり、お客様の安心・安全・おもてなしのための施策も重要課題ですが、市庁舎に求められる要件の中では、観光客のおもてなしのための機能の優先順位は低くなります。ご意見をいただきました観光機能につきましては、新庁舎等建設候補地とは別の議論と考えております。

#### 意見 19

色々な見方が有る。  
しかし下田の場合、いま大事なことは財政を知る事ですね。  
市役所機能は将来にわたり生きるものなら、借金しても将来負担が有っても良いという見方も有ります。  
しかし、交付税でお国が負担してくれる期限があるので、間に合うように計画してA案よりB案が安い、だからB案、これはない。  
25,000人を大きく割ってしまった人口の町で安い案でも30億円予算、異常です。  
国が1/3補助金くれると言っても(補助金と交付税では意味違う)20億円が自己負担、無茶苦茶ハードルが高い。  
事の起こりは、耐震化をしないといけないという通達から始まり、期限が有る中で、津波想定が33mと発表され、津波が来るぞから始まりました。  
次に耐震化、交付税期限いつまでにと強迫観念が先に立って、チグハグな感は否めません。  
先にJ.Cの勉強会で「下田市の新市庁舎を考える～財政の視点から～」講師は立川市で建設に携わった構想日本の川崎幸夫氏は、冷静に将来見据えて財政面での議論を重ねてくださいと言っておられます  
私は議論をずっと続けていれば市の保有する建物が空いてくるから、そこを使えば建てなくて済む、今しなければ、これからしなければならぬのは腹を据えての町活性化です。  
人を増やし、仕事を増やし、活力や明るさを作り出すことをお願いしたいです。  
力は無いですが ならば応援したいです。

#### 意見 19 に対する考慮結果等

費用面につきましては、初期投資が多くても未来を見据えて良いものをとというご意見もあれば、なるべく費用は少ない方が良いというご意見もあります。  
現庁舎につきましては、本館、西館、別館の3棟の建物で構成されておりますが、施設の老朽化が顕著であるとともに、3棟のうち西館につきましては耐震診断の結果、耐震性能がないと判定されており、残る2棟につきましては、築45年以上であり、構造計算書の散逸等により耐震診断すら困難な状況です。  
現状では、開庁時に大地震が発生した場合、津波の前に地震による建物の崩壊により、来庁者や職員の生命が脅かされる恐れがあり、防災拠点としての機能不足が著しい状況です。

#### 意見 20

今回の市長及び市当局による新市庁舎候補地・敷根低地案は、緊急防災・減災事業債の適用になり得る案としているが、私にはそのように思われない。  
「津波浸水想定区域に接しているが、建設物の基礎の嵩上げ等で対応が可能」としているが、市が作成した「津波ハザードマップ」では<留意事項>として「最大クラス(レベル2)の津波は・・・過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものだが、これより大きな津波が発生する可能性がないというものではない・・・過去の地震において、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達した記録が残っている場所もあり・・・浸水しないとされた地域でも津波の危険性が全くないという事ではない。浸水域や浸水深は地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深が更に大きくなる場所がある」と注記されている。  
要するに「ハザードマップ」の浸水域は、あくまで一つの想定モデルであり、絶対にこれ以上浸水しないというものではないという事である。(もちろん「ハザードマップ」の想定よりも浸水しない場合もあり得るが)想定が外れても責任は持たないという事である。  
「ハザードマップ」では下田湾に入った12~15mの波高の津波が市街地を襲った場合、5~10m未満の浸水深で本郷方面は伊豆急の踏切の先辺りまで到達し、以北は減衰していくという表示となっており、敷根地区では「シー・キューブ」の手前から減衰して候補地の辺りで止まることになっている。  
私の考えでは、下田湾に入った津波は柿崎・福浦方面ではね返って西方向への流量増大し、岩下地区まで到達するわけだが、敷根地区は地形がボトルネック状になっているので(谷が最も狭いので)、南海トラフ巨大地震が発生すれば、駿河湾、紀伊半島沖、四国沖、更に日向灘まで次々とプレート境界が跳ね上がり、第

2波、第3波と津波が増幅される可能性もあり、市の清掃センター（海拔 20m）付近まで到達する可能性がある。

津波の遡上高は地形によって入射津波高の4倍まであり得るとするのが海岸工学の定説である。

東北大震災でも谷筋を海拔 30m以上遡上したり、海拔 20mの海岸道路が冠水している。

また考えねばならないのは、津波の2次被害としての火災の問題である。

今夏7月13日に放送された「最大の津波火災～山田町」というNHKの検証番組は、極めて教訓となる内容だった。

<3.11>に8mの津波に襲われた山田町では、瓦礫の山から2か所火災が発生し広がった。

防火水槽・消火栓も9割が瓦礫で埋まり機能しなかった。

消防団は川に水をせき止め、500mホースをつないで消火にあたった。

広い通りの瓦礫が導火線となり火災は広がり、暗闇の家の中から救助を求める人の声を感じつつ、午後9時消防団は自身の安全のため撤退した。

高台の町役場に800人が避難していたが、深夜2時に火の手が迫り10km先の小学校にバスや歩いて再避難を余儀なくされた。

その後風向きが変わり、町役場はかろうじて延焼を免れた。

翌朝自衛隊のヘリが空中から消火にあたったが、残った火種が発火して完全に鎮火したのは3日後だった。

町の中心街は焼け野原となり、瓦礫や焼け跡から収容された289人の遺体は、溺死か圧死か焼死か判別は困難だった。

名古屋大学の「減災連携研究センター」の廣井悠准教授の調査では、<津波火災>はガスボンベの噴出や車や可燃瓦礫の発火を原因として、三陸全体で159件で（2012年の消防庁の集計では、焼失戸数としては東北大震災全体で約2000件）その8割が燃える瓦礫がたまりやすい浸水範囲ぎりぎりの所で火災が発生した。このような実例を考えると、敷根の厚生労働省職員宿舍南側の民有地が津波浸水を免れたとしても、2次被害の火災の危険性は大きいにあり、市庁舎建設の「適地」であるかは疑わしい。

敷根入口のガソリンスタンドが破壊されての燃料流出による大火災もあり得る。

可燃性瓦礫のたまりやすい高台崖下が危険なのである。

岩手県大槌町では10haの森林火災となった。

津波火災を避けるには、ある程度市街地から離れるのはやむを得ない。

「利便性、まちの姿の継続性」というが、防災減災の観点からいえば、むしろ、いずれ発生が確実視される大地震の津波～火災による中心市街地の壊滅、まちの姿の断絶からどうやって復興するかが課題である。

ビルの屋上に大型漁船が乗り上げたり、4階建ての鉄筋コンクリートの建物が津波の浮力で基礎から引きちぎられてひっくり返った東北大震災の惨状を思い出せば、県の第4次被害想定で下田市の全壊棟数が3700棟とされているように大被害を受けることは確実である。

冬の深夜に発生した場合の死者数5100人は日中ならば避難して大幅に減らせるが、建物被害については木造では耐震補強しても津波にはほぼ無力である。

7月29日の市の説明会で蓮台寺地区の住民から「少子化なので稲生沢、稲梓地区の学校を統合して市庁舎として活用したらどうか」との発言があった。

「津波被害を恐れての下田旧市街からの引越しも相次いでいる」とのことだった。

「合併、学校再編が白紙で無理」と市長は取り合わなかったが、この案も大きいにあり得るべきことである。

岩手県大槌町では、町役場で町長をはじめ多数の職員が津波で殉職し、町役場は震災遺構として保存が決まり、被災しなかった小学校に消防署と共に移転している。

下田でも新庁舎ができあがる前に大地震発生となる可能性も皆無ではなく、仮庁舎としての活用を平時から真剣に検討しておくべきだろう。

また、敷根低地案の問題として、津波火災の危険性以外にも土砂災害のリスクもある。

市の「ハザードマップ No. 2」では候補地は近接する下田富士の「急傾斜地崩壊危険箇所」に含まれており、長く続く巨大地震の本・余震動や、今夏の西日本のようなゲリラ豪雨やスーパー台風による崩壊があり得る。

また、敷根川上流の左支川・右支川、敷根上沢の「土石流危険区域」に近接している。

世界的に異常気象が多発する中で、下田でも土石流被害が発生する可能性は大きいにある。

また、副次的な問題だが、この案では市道敷根1号線から庁舎屋上を駐車場として出入するとしているが、伊豆縦貫自動車道が完成すれば、敷根ICと下田駅方面間の交通量が増大し、庁舎への出入には感應式信号機を設置せざるを得ず、伊豆縦貫自動車道へのスムーズな交通を妨げる、新たな渋滞の要因となるだろう。

また、震度6強～5強の本震と、その後長く続くであろう余震によって、庁舎屋上への架道はよほどの制震装置を設置しなければ、建物本体と架道の固有震動周期の違いから架道自体が損壊し、震災対応及び平常業務に重大な支障をきたす可能性もある。

屋上駐車場自体も、仮に一台の車重を 500 kg として、説明資料のプランのように 50 台で満車とすれば、構造躯体に約 25 t の負荷となり、耐震設計上不利でもあり、建設費の増大につながる。

以上のように緊急防災・減災事業債の適用を求める敷根低地案は、苦肉の案であることは理解できるが、多くのリスクと問題点を孕んでいる。

緊急防災・減災事業債の適用は、平成 28 年度着工でなければ適用は難しいとのことのようにだが、「国土の強化」を主要政策の一つに掲げる安倍政権や国土交通省であってみれば、この事業債の活用を市当局に要請した市議会自民党諸氏は、平成 28 年度着工までとする時限的適用の特例的延長や、更なる長期の制度化を党本部なり国土交通省等に求めていくべきだろう。

また、8 月 30 日の「産経新聞」によると、27 年度予算概算要求で国交省の要求額は 6 兆 6869 億円、地方創生や防災減災、インフラ老朽化対策が柱だ。

老朽化対策に取り組む自治体向けの防災安全交付金は 1 兆 2647 億円を計上したとのことである。

この「防災安全交付金」が全て「緊急防災・減災事業債」への充当を意味するのか、それとも何か更に有利な別枠があるのか確認するべきだろう。

説明会で配布した資料では、総合評価として「現在地」「下田駅合築」「敷根公園」の 3 案が「」で、敷根低地案が「」となっているが、私の評価では安全性を最優先して「現在地」「下田駅合築」「敷根低地」が「」で、「敷根公園」が「」である。

敷根公園について、「公園区域の変更について理由付けが難しく困難」としているが、全く理解に苦しむ。敷根公園が県の防災計画において広域避難場所とされ、総合防災拠点としてヘリポートも設置されている現状では、都市公園と指定された時点とは実質的に利用目的が付加されており、「災害時の司令塔を退避させる適地」として早急な区域変更手続きを求めるべきである。

市当局は市民の生命、安全を守るためには、時には行政訴訟も辞さないといった気構えを持ってもらいたい。大津波となれば、グラウンド全体を仮設住宅地としなければならない可能性もある。

また、評価一覧表のいう「経済的波及効果」が何を指しているのかよくわからない。

「下田駅合築」の場合だけは確かに集客効果はあるだろうが、旧商店街の更なる売上減につながる恐れもある。

現在地の経済波及効果とは何だろうか。

市長をはじめ多くの職員が昼食に出前を取ったり、外食したり、退庁後になじみの店で飲食したりしているのか不明である。

「市の職員が飲みに来たりしたことはまず無い」という街の声もある。

市庁舎が街中にあると、高台にあると、市庁舎運営にかかる諸費用や物品購入費や職員の市内での消費額がさほど変わるとは思えない。

また、商店街の振興策と防災対策は全く別の問題である。

商店がにぎわうには市役所がどこにあると、商店自身の魅力的な商品の開発や品揃えが不可欠であり、何らかのイベントやパフォーマンスも含めた演出も必要だろう。

商店そのものに魅力がなければ来店につながらないのは、「ハリスの足湯」の現状を見ても明らかだろう。

確かに敷根公園に市庁舎が移った場合、中心市街地の住民にとっては利便性は損なわれるが、現在でも市街地外からは自前で車やバスで来庁しているので、小型のバスが 30 分に 1 回程度、駅前から発着すれば十分だろう。

あるいは民営バスの循環でも同程度運行してもらい、シニア割引等に市の補助金を出せば間に合わないことはない。

庁舎の支所はどうしても必要とは思われないが、作るなら現庁舎位置等にプレハブ 1 棟で本庁舎の各課と対面相談できる TV カメラ付き PC を 5 台程度置き、PC の苦手なシニアのためのコンシェルジュ 1 名を置き、各種証明書を発行するプリンターを 1 台置けば十分だろう。

都会ではコンビニの端末でも住民票の交付などしているのではないか。

ほぼ不要と思われる。

また、数年後には「マイナンバー」制度が導入され、20 年程度でシニア世代も世代交代が進み、自宅の PC やスマートフォンと市庁舎とのネットワーク化が更に進展すれば、支所自体が過渡的な役割を終えることになるだろう。

少子過疎化に歯止めがかからなければ、頓挫した伊豆の市町の大合併や、議員定数の大幅削減や、市町職員の一部ロボット化による大幅削減もあり得るだろう。

「マイナンバー」制度は、そのような業務効率化のためでもあるだろう。

市庁舎もそのような時代を見据えて、できるだけ汎用性・転用性のある設計をすべきだろう。

その意味で「施設整備室」のニュースレターで「間仕切り壁の少ないオープンな空間を目指す」としている

のは評価できる。

どうしても必要な間仕切りも可動式としたらどうか。

敷根公園案では職員駐車場が別に必要としているが、敷地に制約があるなら地下駐車場を検討すべきである。

屋上駐車場よりも構造躯体への負荷は少ないはずである。

外用の土圧壁以外にも内部にも若干の耐震壁が必要かもしれない。

1階をピロティ式に柱のみとして、駐車場として、建物を高上げするのは耐震上好ましくない。

基礎は当然免震基礎とするべきだろう。

7月の市の説明会での住民側の発言では、これだけ停滞した新市庁舎計画について、議論が尽くされ合意形成が進んでいるとはとても言えない。

正々堂々と情報公開せずに隠密裏に事を進めようとする市長のやり方に問題がある。

安倍政権や国交省も「国土の強靱化」が2、3年で完了するとは考えていないだろう。

恐らく10年程度の長期計画となるのではないか。

緊急防災・減災事業債の実質的延長が見込めるならば、拙速な候補地決定や測量計画を進める必要はない。

繰り返しになるが、今大津波となれば稲生沢中学校辺りを緊急対応として仮庁舎とし、そのまま本庁舎とすることも大いに現実的である。

将来の世代に大きな負債を残すこともなく、まちの身の丈に合っているとも言える。

県の防災計画でも下田高校が敷根公園と同じく広域防災拠点とされているが、確かに蓮台寺案は敷根公園案よりも優れている点もある。

中心市街から住宅地としてつながる平面的な移動であること、現にバス路線がある事、伊豆急の下田駅舎と稲生沢川鉄橋辺りまでの線路が破壊されたとして、東伊豆海岸の線路の被害が軽微であった場合、相当期間蓮台寺駅が仮の終着駅となるであろうこと等である。

市当局には、すでに進めているかは知らないが重要文書類の「サンワーク下田」等での保管や安全な場所のサーバーやクラウドでの行政データ等を保存するバックアップ体制の構築を望みたい。

また、静岡県立大学や名古屋大学等の防災の研究機関の意見も広く求めるべきである。

その上でまちの将来像を含めた、徹底した議論の中で、市庁舎候補地の決定をすべきである。

私の考えでは、敷根低地案への移転は、将来に大きな禍根を残す、敷根公園案と蓮台寺案を軸に議論を深めるべきと考える。

#### 意見 20 に対する考慮結果等

緊急防災・減災事業債の適用につきましては、津波浸水想定区域外であれば適用されます。

浸水の可能性につきましては、公表された想定区域が否かを判断基準としました。

津波火災の安全性につきましては、想定された安全区域は公表されておりません。

土砂災害につきましては、技術的に対策は可能と考えております。

屋上駐車場に関しましては、一つの例として御説明させていただいているものであり、決定しているものではありませんが、専門家への聞き取りでは、屋上駐車場により、建築費が大きく変動するものではないと確認しております。

市庁舎に集客効果がなくても、200人規模の職員が働く事業所がなくなることによる周辺への影響は否定できません。

緊急防災・減災事業債の期間延長につきましては不確定なため、延長を前提とした事業計画はできないと考えております。

公園の変更にしましては、防災上のことだけでなく日常的な公園利用形態につきましての検討も必要であることをご理解いただきたいと思います。

また、再編につきましては今後の議論によるところであり、再編計画の枠組みの中で稲生沢中学校の校舎、敷地が不要となるとは限りません。

#### 意見 21

敷根地区候補地を下田市ハザードマップや下田市防災マップで見ると、津波浸水地域からの距離わずか10m位 急傾斜地崩壊危険箇所から50m位 土石流危険区域から100m位の距離に位置していました。

そこで私は現地に足を運んでみました。

伊豆急下田駅より1km弱で徒歩圏内ですが、商店街とは反対の方向です。

進入路の道幅は非常に狭く車のすれ違いがやっとできる程度です。

山間の奥まった崖下にあり、市庁舎建設地としては非常に悪い立地条件で、なぜここが候補地になったのか

理解できませんでした。

市が建設地決定を急ぐのは、財政負担が軽くなる緊急防災・減災事業債の適用を受けるためとされています。

この制度は、2016年度までの時限処置で、これに間に合わせるには、16年度に最終設計図が出来上がっている必要があります、逆算すると今年の9月が建設地決定の期限になるそうですが...

7月29日に下田市民文化会館で下田市新庁舎等建設に関する説明会がありました。

その中で市は、今までの3候補地から絞り込めなかった理由を多々挙げた上で、敷根地域案が優れている点を挙げ、総合評価で他の建設候補地に比べて高評価としました。

しかし、この候補地は私が訴え続けている、市民の生命と安全を守る安心できる場所ではありません。

また、市長が目指していた商店街を中心とした街づくりに沿う場所でもないように見受けられます。

と言う事は誰も望んでいない場所ではないでしょうか？

今日9月4日付の朝日新聞に、候補地の背後にある斜面が、県の第4次地震被害想定で「崩壊の可能性がある」と判定されていると掲載されていました。

大地震のみならず、豪雨による土砂災害の多発している今夏、災害に対する安全性の低い場所での新庁舎建設に非常に不安を感じます。

建設コストは、知恵を出せばいくらでも抑える事ができます。

国の補助金などに惑わされることなく、本当にこの場所に決定していいのか、冷静になってご再考お願い致します。

#### 意見 21 に対する考慮結果等

新庁舎等に求められる要件をバランスよく検討した結果、敷根民有地案を適地と考えました。

土砂災害につきましても、技術的に対策は可能と考えております。

#### 意見 22

新庁舎建設候補地の件は色々と新聞紙上でも広報されておりますが、災害の事を前提に考えますが、現在地・高台と、それぞれ一長一短と考えた時、立地条件として中間地点でもよろしいと思います。

結論として災害に強い設計、建築の面を考慮して欲しいです。

#### 意見 22 に対する考慮結果等

新庁舎等に求められる要件をバランスよく検討した結果、敷根民有地案を適地と考えました。

設計段階におきましても良い庁舎の建設を目指し努力していきます。

#### 意見 23

これからの下田市の人口減少に伴い、税収も今までのように見込めない事が想定される中、新庁舎建設が必要か否かもっと議論を重ねて、市民の希望する方向を踏まえ、時間をかけ慎重に行っていただきたい。

将来を見据えた時、敷根案は適していない。今後の賀茂郡1市5町の住民の事を考えた場合、敷根公園を白紙撤回したことは賛成でしたが、今回の案はなぜという気持ちが先に立ちました。

事業費の抑制と交付税等々で検討するのは早計だと思います。

建設予定地としては決して高台とは言えず、防災・自然災害面では対応が厳しく、瓦礫の山と化す可能性が想定されます。

行政としての初動体制はとれません、市民の犠牲者が増えることにつながると考えられます。

行政の責任は大変重くなると考えます。

交付税15億円に惑わされないで欲しい、下田市の負担額23.5億円は、現状また、将来に向けてあまりにも大きな負担となります。

東北大震災、四国地方、広島県の集中豪雨による甚大な被害等、環境が著しく変化してきております。

また、下田市の人口減少も2010～2014年の間1421名と歯止めがかかりません。

2025年の賀茂郡(1市5町)の人口は57000名位と予想されています。

このような環境変化の下、新庁舎建設に多額の投資が必要なのではないでしょうか、大変危惧しております。

#### 意見 23 に対する考慮結果等

現庁舎につきましては、本館、西館、別館の3棟の建物で構成されておりますが、施設の老朽化が顕著であるとともに、3棟のうち西館につきましては耐震診断の結果、耐震性能がないと判定されており、残る2棟につきましては、築45年以上であり、構造計算書の散逸等により耐震診断すら困難な状況です。現状では、開庁時に大地震が発生した場合、津波の前に地震による建物の崩壊により、来庁者や職員が生命が脅かされる恐れがあり、防災拠点としての機能不足が著しい状況で建替えは急務となっております。

ります。

将来的に賀茂地区の市町が合併した場合を想定し稲梓地区に新庁舎を建設すべきというご意見は少なからずいただいておりますが、現在のところ合併の構想もない状況です。

合併計画が具体化した段階で新市の庁舎位置につきまして検討することとなります。

高台の定義は曖昧で海拔で x x m 以上が高台であるという基準はありません。

候補地選定にあたっては高台とは津波被害を受けない場所と考え敷根民有地を選定しました。

交付税措置はいくつかのメリットのうちの1つであり、それだけで選定したわけではありません。

新庁舎建設に多額の投資は不要と考え、敷根民有地案を選定したものです。

#### 意見 24

新庁舎の建設候補地の一つに稲生沢も出ましたが、私としては良い考えと思います。

安心安全を考えても良いですね。

子供の移動も多くあります、学校も少なくありません、伊豆急駅も近くにあります。

#### 意見 24 に対する考慮結果等

稲生沢中学校敷地につきましては、中心市街地との関係は希薄ですが、蓮台寺駅に近いことや、国道414号からのアプローチが可能なこと、バス路線も確保されていること等のメリットも多く、候補地となり得るか検討した経過もあります。

しかし、庁舎移転のために学校を統廃合することはできませんので、学校再編の結果、空いた校舎、土地を利用するということとなります。

また、再編につきましては今後の議論によるところであり、再編計画の枠組みの中で稲生沢中学校の校舎、敷地が不要となるとは限りません。

#### 意見 25

せっかく決まった新庁舎の建設予定地を変更するのですから、以前決定に至った時よりももっと被災地のその後なり、他地域の対応なりに学び、今だからこそ考える最高の施設を作らなければと思います。

##### 1. 絶対に津波が来ない安全な場所を選ぶ。

当たり前ですが、津波の浸水は無く、地震の後に市の職員や対策本部等ができる時、人が集まって来れる場所でなければならないと思います。

歴史にも学び安全な場所を吟味しなければなりません。

##### 2. 後方支援の受けられやすい場所を選ぶ。

伊豆縦貫自動車道の開通を見据え、インター付近を考えるのが望ましいと思います。

##### 3. 海と山に囲まれた伊豆・下田の自然豊かなイメージを売りにする場所。

やはり太陽光発電の設備を整え、施設周辺も伊豆・下田を感じられて観光客や視察団も訪れたいくなるような施設を作るべきだと思います。

例えば公園・菜園・サイクリングロード・遊歩道等々、下田を活性化するための起爆剤に新庁舎の建設がなってくれるように選定すべきだと思います。

大きく以上から稲梓・稲生沢地域が望ましいと考えます。

市の大切な資産ですから市の主要施設が1か所に集中することなく、先々の市町村合併も見据えて建設予定地を選んでも良いのではないのでしょうか。

今は不便だと思われても、利便性は変えられます。

#### 意見 25 に対する考慮結果等

##### 1. 敷根民有地案は津波浸水想定区域外であり、津波に対する安全性は高い場所と考えております。

##### 2. 敷根民有地案は伊豆縦貫自動車道のインターチェンジに近く、支援を受けやすい場所と考えております。

##### 3. 下田市活性化のための施設整備は必要ですが新庁舎に求められる要件と活性化のための施設に求められる条件は異なるため、双方に適した一か所を選定するのは困難であり、別箇に選定した方が良く考えております。

稲生沢中学校敷地につきましては、中心市街地との関係は希薄ですが、蓮台寺駅に近いことや、国道414号からのアプローチが可能なこと、バス路線も確保されていること等のメリットも多く、候補地となり得るか検討した経過もあります。

しかし、庁舎移転のために学校を統廃合することはできませんので、学校再編の結果、空いた校舎、土地を利用するということとなります。

また、再編につきましては今後の議論によるところであり、再編計画の枠組みの中で稲生沢中学校の校舎、

敷地が不要となるとは限りません。

将来的に賀茂地区の市町が合併した場合を想定し稲梓地区に新庁舎を建設するべきというご意見は少なからずいただいておりますが、現在のところ合併の構想もない状況です。

合併計画が具体化した段階で新市の庁舎位置につきまして検討することとなります。

#### 意見 26

現在の候補地である敷根地域（厚労省官舎南側）への建設は反対です。

以下に理由を述べます。

津波浸水想定区域に隣接し、先の大震災のような想定外の事態には全く対応できず、不安要素は解消できないと思います。災害発生時の行政の役割を考えた場合、職員の皆さんが避難等の心配をすることなく業務についていただくことが大事であり、対策をとる以上は万全であっていただきたいので、現案では賛成できません。

イニシャルコストでの優位性が説明されましたが、人口減少しながらも下田市を維持していくには、ランニングコストも重要であると考えます。地震災害のみならず、先の広島県での土砂災害を踏まえれば、傾斜地に盛り土を行い建設することは、未来への負の遺産になりかねません。

以上を踏まえ、再度候補地の選定を望みます。

今回のパブリックコメントにあたり、他の自治体の同様の事例について調べました。下田市が提示して下さった資料とそれらを比較すると、市民への説明不足を痛切に感じました。同人口規模の自治体との比較（建設費用や設備等）などがあれば、説明会においても賛同が多くなったのではないのでしょうか。

市民会議での提言を覆し、一案に絞って提案された原案の説明は、市長はじめ市当局の熱意を感じることはできませんでした。

この事案にかかわるすべての職員の皆様には、熱意をもって取り組んでいただき、市民に誇れる案をもって進めていただきたいと思います。

#### 意見 26 に対する考慮結果等

東日本大震災における大きな被害につきまして「想定外」という文言が頻繁に使用されておりましたが、今後の災害への対応に当たっては、想定外があってはならないという考えのもと、起こり得る最大規模の地震を想定し、静岡県第4次地震被害想定が公表されているものです。

新候補地は、この想定における津波浸水想定区域外に位置しておりますので、津波に対する安全性は高いと考えております。

敷根民有地案におきましては大規模な盛土地盤の上に新庁舎等を建設することは想定していません。

傾斜地に接しているため土砂災害の危険性はありますが、技術的に対策が可能と考えております。

パブリックコメントの募集にあたり、建設位置だけでなく建物の配置計画、設備計画等具体的なものをお示しできればよかったですのですが、計画に先立ち場所につきましてのご意見を伺いたいと考え、今回の意見募集となりましたことをご理解ください。

#### 意見 27

白紙に戻して再考したらどうでしょうか、市庁舎の建替えが市民にとって本当に必要なのでしょうか。

耐震設備さえしてあれば、現在のものでも良いのではないのでしょうか。

必要な事は保全されるべき資料や情報を消失しないことであって、そのことは今のIT関係の技術で十分保存可能だと思いますがどうでしょう。

急ぐ必要はない、無駄な支出にならないよう、もう一度原点に戻って考えてみることでと思います。

それより先に小学校（下田・朝日など）や下田保育所の子供達の避難路整備、観光客の避難方法などをはっきりさせた方が良くと思います。

#### 意見 27 に対する考慮結果等

現庁舎につきましては、本館、西館、別館の3棟の建物で構成されておりますが、施設の老朽化が顕著であるとともに、3棟のうち西館につきましては耐震診断の結果、耐震性能がないと判定されており、残る2棟につきましては、築45年以上であり、構造計算書の散逸等により耐震診断すら困難な状況です。

現状では、開庁時に大地震が発生した場合、津波の前に地震による建物の崩壊により、来庁者や職員の生命が脅かされる恐れがあり、防災拠点としての機能不足が著しい状況です。

耐震補強を実施する場合は、億単位の出費が想定されますが、補強したとしても築45年以上の建物を長期に使用することはできないため、近い将来、建替となり、無駄な出費をすることとなります。

新庁舎等建設の費用をできる限り抑制し、その分の費用を小学校（下田・朝日など）や下田保育所の子供達の避難路整備等に充当するためにも敷根民有地が適地と考えております。

## 意見 28

市役所移転の候補地、第4の案は山あいの土地で土砂崩れの危険があると思います。以前、上流の敷根グラウンドから山を越えて焼却場の所まで歩いたことがあります。ここは散歩道として整備されていましたが、非常に崩れやすい所だと感じました。石や土が雨で流されゴロゴロとした、せっかく整備された道も急傾斜です。砂防ダムみたいなものが焼却場の上流にありましたが、大雨で崩れる危険を感じました。国の交付金を当てにして建設を急いでいるようですが、下田市は市の機能を1か所に集めなくても良いと思います。失われてはいけない情報(戸籍等)は保管場所として安全な所に移しても、おなじみの窓口業務は交通の便の良い伊豆急駅にさせていただきたいと思います。「市民事務所」みたいな感じをお願いしたいと思います。

## 意見 28 に対する考慮結果等

土砂災害の危険性につきましては、技術的に対策は可能と考えております。分庁化につきましては、要件によっては複数の庁舎に出向いていただく必要があるケースも想定され、市民サービスの低下につながることや、事務効率の低下も懸念されるため、できるだけ庁舎機能は1か所に集中したいと考えております。

## 意見 29

中心市街地に近く、下田駅からの徒歩圏内であり、アクセス性・利便性にすぐれていると思う。

## 意見 30

下田市新庁舎等建設の説明会資料をホームページから見ました。敷根地域(厚労省宿舍南側)に賛成です。

## 意見 31

平成26年7月29日の下田市新庁舎建設についての説明会の資料等により、利便性、安全性、経済性の3点の視点を備えているのは、市当局が提示している敷根民有地案が適地だと思います。

## 意見 32

新庁舎の建設は街中にも近く、新たに提案された敷根で良いと思います。但し、道路が狭いので、街中から歩いていく人の通路等便利のように考えてください。

## 意見 33 (計9件)

新庁舎、敷根民有地建設に賛成です。公園ほど遠くなく便利だと思います。防災面からも適地であります。

## 意見 34 (計2件)

敷根民有地に賛成です。早く実行に移してください。敷根公園横への移転は、市街地から遠く反対です。図書館は子供たちのためにも立派なものを作ってください。

## 意見 35

新庁舎候補地について、災害に強い建物はもちろん、場所はまちの中心よりあまり遠くない方が良い。小生運転ができず、何かと市役所には用事があるので、歩いて行ける位の所に希望します。現予定地が良いと思う。(敷根民有地)

## 意見 36

建設候補地(4か所)を見ましたが、評価一覧の内容を鑑み、下田市の負担が一番かからない「敷根地域」が妥当だと思います。津波対策による移転で仕方ないと思いますが、市の財政を重視し、市民に負担がかからないよう望みます。

## 意見 37

新庁舎建設場所について敷根民有地案に賛成します。下田市の実負担額が他の候補地と比較すると一番少なく、防災面(津波浸水)からも安心できるとともに、市街地からも遠くないため利便性が良いと考えました。

## 意見 38

新庁舎候補地が二転三転し、市長をはじめとする執行部の皆様は色々と熟考した事と思います。経済面とか利便性を考えると敷根民有地の選択は良い結果だと思います。私はこの案に賛成です、事業を進めてください。応援します。

#### 意見 39

民有地案に賛成です。

- ・ 現在地はやはり建て替えとなると、少しでも安全な所が良い。
- ・ 高台に越したことはないが、移動は大変と思う。
- ・ 民有地案は中間地点であり、一番良いと思います。

#### 意見 40

下田市新庁舎建設地について、浸水域外の候補地とのこと、大賛成です。

これまで3か所が検討されてきたようですが、いずれにしる一長一短あるでしょう。

しかし賛成の理由として、現在地(市役所)に近いこと、何より下田市の財政、市民の利便性、特に市の人口減少、少子化等考えて、最適な場所ではないかと思えます。

#### 意見 41

現在市庁舎建設の予定地となっている民有地について賛成です、適地だと思います。

高齢者だけで暮らしている家庭を考えてください。

バスターミナルから歩いて行ける距離が考慮されるべきです。

反対もあるでしょうが、他に適当な土地があるのでしょうか。

#### 意見 42

いずれの候補地にしても100%良しとして全てを満たせるものでもなく、市民の皆様全員が一つの候補地に定まるといっても無理な事と思われまます。

今回の候補地は色々な面から考えて熟慮されたことと思えますので、前向きに進めて欲しいと思えます。

時間も迫っているのでは・・・。

#### 意見 43

27日の伊豆新聞を拝読しましたが「決定後の異論を新庁舎に反映」という考え方は素晴らしいと思えます。良く理解できないまま反対していたでしょう市民も「こうして欲しい」「こうしたら更に良くなる」等々、本当の気持ち、意見が出て来るのではないのでしょうか。

何より窮迫財政の現下下田市にとって事業費等考慮しても、敷根民有地が現状ベストの選択と考えます。

#### 意見 44

私は今回提案された候補地が一番良いと思えます。

高台の候補地より駅に近く、津波の浸水域外という事、それに加えて国の緊急防災・減災事業債を活用できることは、大変良い条件の場所です。

是非、今回の候補地で決定してもらいたいと思えます。

#### 意見 45

駅ビルと敷根公園の2案がございますが、第3案の敷根民有地への移転が良いと判断します。

<理由>

移転費用が少なく津波被害を考慮しなくても良いため、災害時における指揮系統が生かされ、復旧・復興におけるリスクが軽減される。

#### 意見 46(計2件)

今回提案された候補地に賛成いたします。

まず、駅からも近く平坦であるということ、これは何より老人にとってありがたいことだと思います。

そして、浸水域外にあり国の緊急防災・減災事業債を活用できること。

下田市にとっては最高のメリットだと思います。

一日も早く決議されて新しい下田市に生まれ変わっていただきたく思えます。

#### 意見 47

市が候補地としている敷根の民有地に賛成します。

・ 下田駅、旧町内からもさほど遠くなく、ある程度の標高があることから、立地条件としては、悪くないと思えます。

・ 将来伊豆縦貫自動車道が開通した時には、インターチェンジが近い場所に計画されているため、道路整備や交通の利便が促進されると思えます。

#### 意見 48

敷根公園は不適格だと思います。

しかし、伊豆縦貫自動車道のインターの近くでなくてはならないと考えると、敷根公園の下の民間の土地が有力と考えます。

津波の想定があまりに大きすぎるのではと疑問に感じています。

まちの中心として道路の整備された場所、駐車場のとれる場所を希望します。

#### 意見 49

新庁舎移転場所につきまして、4つの候補地がありますが、敷根民有地建設に賛成です。市街地から遠くなく、利便性も良く、防災面においては津波浸水区域外にあるので良いと思われます。一市民としては、市の経済的負担の一番軽いものを望みます。その他の候補地につきましては、現在地・駅ビルともに経済的負担が大きい、津波浸水区域であるということ、敷根公園については市街地から遠く利便性が悪い(車の無いお年寄り等の事を考えて)等の事で反対です。

#### 意見 50

私は今回提案された候補地に賛成です。今回の候補地は駅や旧町内からも近く、国からの補助も出ると聞きました。津波浸水域外という事もあり、早くに決断すべきだと思います。現在の庁舎は老朽化が進み、耐震性もないので、一日も早く新しい庁舎ができるよう希望します。そして、今の庁舎よりも駐車場を広く作って下されば、なおうれしいです。よろしくをお願いします。

#### 意見 51

この度の建設候補地について、当初敷根公園を候補地とした場合に、利便性、利便性の向上のための永久的交通機関への負担、建設費の負担を考えるに、この度市が提案した候補地は、浸水区域から外れること、徒歩で利用する方にも駅から徒歩で利用が可能な事から、旧市街地・その他の地域の方々にも利用しやすい候補地ではないでしょうか。また、建設費の面でも、これから先人口の減少、高齢化が進むのは明らかで、少しでも市の負担を増やさない(市民も)努力が見受けられ、私はこの候補地に賛成いたします。

#### 意見 52(計2件)

下田市庁舎移転検討についての一意見です。現在の市庁舎は耐震性が乏しいことと、それを上回る形での老朽化が外目から見ても明白です。その様な中で出された3つの候補地の中では、敷根民有地を移転先とする案が最もバランスが取れていると感じます。津波想定の見直し等がなされていますが、いずれの場合においても、移転が急務だと考えます。少しでも早く建築が始まりますよう、早急な決定を望んでおります。

#### 意見 53(計2件)

市当局より出されている  
利便性、まちの姿の継続性  
津波浸水想定区域からの危機回避(安全性)  
経済性  
の3点をバランスよく満たしている敷根民有地を適地として考えます。  
市当局の提案に賛同します。

#### 意見 54

なぜあの場所なのか疑問でしたが、市長の説明により、財政の事、補助金、安全性、利便性等の事を勘案すると、あそこなのかなと思いました。しかし、少し心配な事は、敷根道路の山斜面です。大丈夫との説明でしたが、場所によっては台風や大雨の後、石が落下しているのが現実です。また、稲生沢、稲梓と言う方もありますが、下田市の今後のまちづくりにも、ぜひ市内地に建設希望いたします。

#### 意見 55

賛成 津波の想定域から外れている候補地で中心地に近い(敷根公園に比べ)、将来的に河津下田道路が開通し、敷根ICが完成した際、アクセスも容易になる。  
問題点 現状の敷根1号線の拡幅等(市役所入口付近)が必要ではないのか。  
駐車場が今以上に広くならなければ来庁者の違法駐車及び渋滞の原因となる。

#### 意見 56

「緊急防災・減災事業債」が活用できる、敷根の新庁舎候補地に賛成。  
財政負担の圧縮のメリットはとても大きいと思う。  
開通時期は未定だが、伊豆縦貫自動車道のICの建設予定地に隣接しているところもメリットのひとつ。  
ただ、利用する立場として、道路の幅員の狭さが気になる。  
学校、保育園も近くにあり、渋滞軽減のことも少し考えてもらいたい。

安全の確保の検討が必要と思われる。  
事業債が活用できる、早期の着工を希望致します。

#### 意見 57

市役所当局の提案している敷根の新候補地に賛成します。

#### 利点

・候補地は駅、市街地から近く、交通渋滞も現市役所から比べて少ないので利用しやすいと思われます。

#### 課題

・候補地に接する市道幅員が狭く、国道に接続する敷根1号線との合流点が複雑な為、検討が必要と思われます。  
・現庁舎の駐車場が狭い為、隣接道路に駐車するケースが多く新庁舎での改善が必要と思われます。

#### 意見 58

1. 現在地に避難タワーとともに建設という声があるが、あの辺り一帯はその昔田んぼである。耐震設計での建設となると大きな財政負担となり、現在の下田市にはその余裕があるとは考えにくい。
2. そして又、一時的にせよ大きな財政支出をして、現在地に建設することは次世代の子供達に大きな負担になることは間違いない。
3. 市当局が提示している候補地は現庁舎よりそう遠くないし、市全体から考えれば、その利便性に大きな支障があるとは考えられないし、地震、津波からいち早く逃れるためにも候補地に建設することが望まれます。

#### 意見 59

#### 賛成

危機管理機能強化など市民の不安を解決して、下田市の今後50年、100年を支える庁舎にさせていただきたいです。

また、あらゆる災害対策をし全国に先駆けた防災面に特化した庁舎のモデルケースを作ることによって、庁舎自体が新たな観光資源になることで古く歴史ある開国のまちに加え、新しい歴史を創っていく開国のまちにもなるのではないのでしょうか！

観光地として古き良き歴史の下田でありながら、新しい歴史を下田市民全員で創っていけたら良いと願っています。

#### 意見 60

具申書を書くのは初めてです、賛成です。3500㎡(建ぺい率60%とか)の敷根民有地に。当初、伊豆急駅ビルが下田市活性化のために最適かと考えておりましたが、次回再契約を考慮しますと、賃借は強い不安感があり駄目という認識に至りました。また、高台は遠方すぎる。現敷根の民有地が、最適な候補地が、市民に今一つ理解、賛成を得られない状況は、場所(新庁舎候補地の)が良くわからないという事も考えられると思います。車で通りながら「この下、新庁舎候補地」等の看板設置は無理な問題でしょうか。現体制で最高の、後にあの時の決断は間違っていなかったと思える新庁舎を期待します。

#### 意見 61

9月に建設候補地が決定となるとのこと、何よりです。市長さんはじめ市役所の担当者等々、中心市街地の事を考えてくれることを評価させていただきます。確かに少子化の時代到来等、これから色々な要望、意見も出て来るとは思いますが、現状敷根が決定されることに賛成です。学校再編も含め、伊豆縦貫自動車道等、次にやるべきことが山積でしょうから市民も納得でしょう。少子化問題等も観光立市ですので乗り切れるのではないのでしょうか。市民の意見、考え方を庁舎と同じように聞いて解決して行ったら良いのでは・・・。何より敷根民有地賛成です、頑張って進んでいってください。

#### 意見 62

私は敷根民有地案に賛成します。  
第1に津波浸水区域からの危機回避ができることは安心である。  
中心市街地、下田駅から近く、敷根1号線からアプローチができること。  
緊急防災・減災事業債適用による、財政負担軽減。  
敷根公園より敷根民有地の方が事業費が安く上がり、市民に対する財政負担が軽減され、下田市の財政上からも借金を少なくし市民が少しでも元気になれる事を願う。  
利便性、安全性、経済性の三つのバランスが良いので頑張って進めてください。  
市議の方はしがらみを捨てて、市民のためになる決断をされることを願います。

### 意見 63

市役所当局の提案している敷根の新候補地に賛成します。

- ・一番の理由は、緊急防災・減災事業債を活用できる点で財政難である地方公共団体にとっては、大変有効な補助金であると思います。  
来年度中に着工しなければ、この補助金が利用できないこともあり時間がないことも挙げられます。
- ・中心市街地から徒歩圏内であり、シャトルバス等の運行に必要なランニングコストが掛からないこと。  
また、将来伊豆縦貫自動車道のインター付近で交通の便が良いことが挙げられます。
- ・敷根付近は道路が狭く、歩道等の安全施設の整備が必要ではないでしょうか。
- ・敷根1号線の崩壊の危惧がされていますが、しっかりとした崩壊防止の対策をすれば、心配ないと思います。

### 意見 64

今回提案された候補地は旧町内・駅からも近く、平坦で利便性に富んでいる上、津波の浸水域外にあるという事で安心・安全な場所であると思います。

その上、国の緊急防災・減災事業債を活用できるということで、下田市の財政にとって最高のメリットがあります。

このような条件を満たす場所は他にはないと思います。

今まで何回か候補地決定が先送りになってきましたが、現在の庁舎は老朽化が進み耐震性もないので、少しでも早く建築が始まることを望みます。

今回の案を反対している方々、また議員の皆様も、市当局の提案によく耳を傾け冷静な判断をすべきと思います。

### 意見 65

敷根民有地に建設することに賛成します。

駅から徒歩圏内であること。津波の浸水想定区域外であること。国からの交付金がもらえること。特に について、下田市は財政的に厳しいので、市庁舎建設にあたって国からお金がもらえることは一番重要視されて良い点だと思います。

当初予定していた金額の差額を市民サービスや観光客の誘致活動、災害弱者(お年寄りや子供たち)の避難場所の整備や津波避難タワーの建設等、他の事業の推進にあてたらどうかと思います。

それと、この場所以外ではお金がもらえる条件(平成28年度中着工)に間に合わないのでは・・・。

### 意見 66

説明会を聞く以前は、観光地「下田」としては駅ビルの新庁舎を望んでいました。

しかし、財政負担が大きく、このままでは次世代に負担をかけてしまうのではないかと思い始めています。

敷根公園は津波の被害を受けないメリットはありますが、市街地から外れている、徒歩で行けないなど、これから迎える高齢化社会にやさしくないと思います。

シャトルバスなどの案もあると思いますが、長い年月の間には負担が大きくなっていくのではないのでしょうか。

そのことからすれば、津波の被害もない、歩いて行ける、財政負担が少ない敷根民有地が最適ではないかと考えます。

色んな市民の意見があり、どのような結果が出ても批判があると思いますが頑張ってください。

### 意見 67

敷根公園には反対です。

利便が悪く、また図書館併築となると万人向きではありません。

お年寄りは中々そこまで歩けません。

敷根民有地は賛成です、平坦地が良いです。

これまで旧下田小学校の歴史的建造物も壊され、武ガ浜には箱物と言われるベイステージが建ち、知らない間にそうなっていました。

そのままでしたら今回も敷根公園に市役所が建つことになっていたでしょう。

敷根公園がベストだと思う方々は、候補地がどこであろうと反対するでしょう。

市が提議し、市民がディスカッションする、そんな場ができたことは素晴らしいことだと思います。

### 意見 68

前市長の時に市民会議に参加した一人です。

その折は、金銭面は全く考えずで良いとの事で、一応は満足度90%で、私自身適所の場所だと思っていました。

でも正直、楠山市長がその場所を撤回した時は、大憤慨でした。

でも、今回の場所に至った事情を2回に渡って聞いた後は、自分の考えも変わっていきました。高齢化が進む中、自分の足で歩いて行ける所。シャトルバスを敷根の上に出した場合の経費の重さ(それが市民税等として自分自身にかかってくる)を考え、駅から近い新候補地の方が優れている。

場所的に宅地の中の庁舎は親しまれる庁舎として、存在感、頼れる庁舎になるのではないのでしょうか。(山の上の庁舎より民間の中にある庁舎)

素晴らしい庁舎、暖かい庁舎の建設を願います。

#### 意見 69

##### 位置

心配される津波被害から見ると、津波浸水想定区域外であり、現在の場所より危険性が低くなるので安心できる。

また、市街地より比較的に近い場所にあるため、現在と同じような感覚で利用ができるので、ベターの場所だと思う。

##### 費用

前候補地より、補助金交付を受けることができ、事業費が抑えられるということなので、この厳しい財政の中ではベターな場所と言える。

##### 課題

敷根1号線沿いに、公園やこども園や下田中学校があるため安全対策が必要であり、また夏場には特に渋滞が発生するため、渋滞対策も必要である。

#### 意見 70

早速ですが、3.11の三陸地震と津波被災を受けて、現在地の計画から突然高台(敷根公園)に変更されることになっていきました。

そもそも、そのことが軽率な判断と言わざるを得ません。

被災の大きさを目にして感情的に計画されたことのように思われるのです。

被災を考慮するならば、防災計画の見直しが先で、その中において庁舎の位置が決められることなのではないでしょうか。

復興のためには庁舎の安全性などが盛んに論じられましたが、復興より人命が優先されるべきで、庁舎の避難ビルの役割などという考えは聞こえてきませんでした。

見直しは行われたかもしれませんが、その内容は十分に伝わっているとは言えません。

また、法を守るべき市が都市計画法によってスポーツ公園として造られたものを無視した杜撰な計画も問題です。

批判することは他にも多々ありますが、4案に対して意見させていただきますと、都市計画事業を進めている下田市からすれば、中心市街地に位置することが当たり前ですが、市の財政事情と少子化問題からすれば、他の事はさて置いて敷根民有地を選ばざるを得ないと思います。

少子高齢化が進む中、次世代の負担を最小限にするためと、2か年での建設に際しての一般財源の負担を考慮すれば2億5千万円でも大変と思われるかもしれませんが、それ以上の持ち出しでは通年予算が困難となり、市民生活にも影響するのではないのでしょうか。

以上の事から敷根民有地に賛成しますが、その計画もまだまだ不透明な事もたくさんあります。

一つ一つ解決して素晴らしい庁舎を造って下さい。

#### 意見 71

今回の建設予定地には、それぞれにメリット・デメリットがあると思います。

しかし、総合的に判断すると、やはり今回市長の方から新たに提案された場所が妥当だと思います。

将来の下田市のまちづくりにおいても、また安全性、経済性の面から見ても一番バランスの取れた選択ではないかと思えます。

もう少し時間があり、国の施策等の下田市にとって都合の良い条件があれば別ですが、それについては考えにくく、今回の提案場所に賛成します。

また、前から候補地にあがっている敷根公園周辺については、やはり最初の段階から無理があり、今現在市民に親しまれ、利用されている公園の機能を壊してしまう可能性があるのではないかと考えています。

様々な面から考えていくと敷根公園案はデメリットの方が想像でき、見直すべきだと思います。

今回市長の方から提案された候補地についても完璧ではないと思いますが、付帯設備等、また隣接すべき施設等の問題など(図書館等)はメインを決めた後に、また市民で知恵を出し合って検討して行けば良いと思います。

色々書かせていただきましたが、20年30年先の下田市のまちづくりにとって何が良いか、この事を優先順位が一番に考えた選択を期待します。

## 意見 72

私は、下田市新庁舎移転場所が敷根になることに大賛成です。

### 利点

- ・計画地周辺には下田市に関係する施設が数多く存在しており、災害時の避難場所及び活動拠点としても大変有効である。
- ・災害発生時には、市職員が中心となり市内の情報連絡等を速やかに行い行動するためにも最適な場所である。
- ・以前より敷根に庁舎が移転することで、色々な現地調査を行っており市民としては無駄にして欲しくない。
- ・昔と違い周辺道路も整備され、多方向からの交通アクセスが有効である。

### 課題

- ・来庁車の国道 136 号から敷根 1 号線に入る交差点が渋滞する可能性がある。
  - ・老人の来庁方法（徒歩の場合）
- 災害時のことを考えると、対策拠点となる市役所庁舎が津波等で壊滅してはどうにもならない。

## 意見 73

### ポジティブな意見

- ・緊急防災・減災事業債を活用できる
- ・市街地に近く、利用しやすい
- ・現庁舎の老朽化が進んでおり、早期の建替えが必要

### ネガティブな意見

- ・新市庁舎候補地に至る道路が狭く、渋滞の懸念あり
- ・津波浸水想定域にあまりに近すぎる
- ・伊豆縦貫自動車道の I.C 候補地に近く、観光客の出入りが激しくなると地元民が利用しにくくなる。
- ・観光客が市役所に寄ることは少ないため、I.C の近くという立地はメリットにならないように思う。

### 結論

緊急防災・減災事業債の期限が近づいていることもあり、ひとまず現候補地に市庁舎を立てることに賛成する。

しかし、津波浸水想定域に近すぎる点は決して無視できない懸念である。

そのため、新市庁舎建設後の課題として、敷根公園等の高台に、緊急時に必要最低限の役所機能を移転できる設備を建設してほしい。

## 意見 74

下田市新庁舎建設について色々と議論されています。

私は伊豆急との合築構想に賛成でしたが、それはほど遠くなったようですね。

新しい候補地が焼却場へ続く途中の場所、伊豆縦貫自動車道を踏まえ稲生沢・稲梓地区を上げる声も出ている。

確かにこの道路が担う役割は大きいですが、市庁舎となると市民の利便性が一番大切と考えます。

近い将来市町合併はあると思いますので、新候補地は各所よりのアクセスが良いし、防災面でも敷根 1 号線へ続ける構想ができるし、市は財政的にとても厳しいと思います。

新候補地は建設費用も大幅に差があります。

周辺の活性は過去案があった敷根学園都市計画で学生を増やし、多方面にわたって経済的効果も大きいと考えます。

月並みですが、住みやすいと思えるまちづくりをお願いします。

後へ続く子供達に大きなつけを廻さないで！新候補地賛成です。

## 意見 75

### 1. 敷根公園案

私は市内岩下地区住民です。8/31 に敷根公園で行われた防災訓練に参加しました。

徒歩にて敷根公園まで行きましたが、延々と上り坂で大変な思いをいたしました。

さて老人ではいかがでしょうか？

交通手段の無い老人にとってシャトルバスを頼るしか交通手段は無く、岩下方面の方々も不便無くバスを利用できるのでしょうか？疑問に思います。

### 2. 現在地、駅ビル

やはり津波にたいする安全性に関する懸念があります。

### 3. 敷根地域

津波浸水想定区外である事。歩いても現在地と殆んど差がない事。

又、平たん地で老人が歩きやすい事。

市街地に近く単に市役所へ行くだけで無く、他の用事も済ます事ができる。

4. 候補地ごとの財政負担額を比べても現在地 61 億円、駅ビル 51 億円、敷根公園 45.5 億円、敷根地域 38.5 億円と敷根地域建設が一番負担が少なくなっています。

上記により利便性、安全性、経済性を考えまして敷根地域が最も適した建設地と考えます。

#### 意見 76

新庁舎建設候補地（案）敷根地域（厚労省宿舍南側）

経済性：下田市の財政面から考慮すると他の 3 候補地は敷根民有地と比較して借入金・一般財源とも比率が高いため、財政を圧迫する。

安全性：敷根公園・敷根民有地は津波浸水想定地域外にあたる。

他の 2 候補地は津波浸水想定内域であるため、安全面から考慮すると相当の津波対策補強工事を行わなければならないと思われる。

一般市民及び観光客等第三者を見据えた対策等も考慮の対象となる。

敷根公園候補地から比べると敷根民有地は絶対安全とは言い切れないので、若干の津波補強工事が必要な場合も出る可能性がある。

利便性・まちの姿の継続性

現在の下田市役所・下田駅合築案は用途地域は商業地域であり、中心市街地からのアクセス面でも市民にとって利便性が高い。

敷根民有地の場合は下田駅から新庁舎候補地までの距離が 500m 前後、徒歩で 10 分位と比較的近距离にあり、中心市街地から若干外れるが旧町内へのアクセスも比較的短時間でいけるほどの距離で私個人としては利便性が高く、街の姿の継続性も旧下田町の一部と捉えれば、候補地として十分考慮の対象としてもよいのではないかと思われる。

経済性・安全性・利便性を十分兼ね添えた候補地は敷根民有地にほかならないと思われる。

#### 意見 77

・新庁舎建設

提示された敷根下の民有地に賛成です。

国の補助金は大きいので、いろいろな意見があることは承知していますが、早く決定して実行に移さなければ、時間的にも厳しいと思います。

補助金をもらうことによって、他の事業に浮いた予算を活用し、地域活性に資する事業を行えば良いと思います。

・敷根公園横

敷根公園への庁舎建設は中途半端であり、反対です。

・駐車場

駐車場の台数を増やす方法を考えてください、隣接地等の活用等。

・図書館

敷地が狭いようですが、図書館の合築はどうなりますか。

駐車場の問題もあれば、駐車場もとれる場所に市民の活用が広がるような施設にしてもらいたい。

・歩行者道路

市庁舎への歩行者通路を考えてください。

現在の市道では狭く、車と歩行者のすれ違いは危険だと思います。

意見 29 から 77 に対する考慮結果等

ご意見を踏まえて、今後計画を推進いたします。

#### 意見 78（計 8 件）

敷根民有地の庁舎建設に賛成。

図書館は庁舎と別に建設する。

#### 意見 79（計 22 件）

敷根民有地の庁舎建設に賛成。

敷根公園の庁舎建設に反対。

図書館は庁舎と別に建設する。

#### 意見 80 (計 12 件)

市提示の「敷根民有地」に新庁舎を建設することに賛成（予算が少なくすむ・便利が良い）。「敷根公園」案には反対（場所が市街地から遠い・経済的に非効率）。図書館は合築よりも違う場所に建設すべき（独立して建設し、非常時の避難場所として活用可能）。

#### 意見 81

1. 敷根公園案は稲生沢住民にとってはあまりに不便です、年を取れば車も運転できません。
2. 現在地が最適ですが、国の補助が無いので問題です。
3. 敷根民有地案でやむを得ないと思います。
4. 図書館は稲生沢地区が良いと思います。

#### 意見 82

市街地に近い今回提示された予定地に賛成です。図書館は現在の場所も狭く、駐車場も無い為、新たな場所へ建ててもらいたい。今回の市庁舎案だと図書館もただあるだけとなりそうで、施設の充実した図書館を新たに計画してもらいたい。

#### 意見 83

津波浸水想定区域外の内、敷根公園の横は市街地より遠いので、今回の敷根民有地が良いと思います。また、駐車場の整備も合わせて考えてください。図書館は、庁舎内にできないようでしたら、利用しやすい所に建ててください。敷根交差点はとても渋滞が激しいので、車の渋滞緩和対策も合わせて検討していただきたい。

#### 意見 84

1. 稲生沢中学校の辺りも良いが、現状の準備期間では不透明で課題も多く無理である。
2. 敷根公園案は、震災まもない状況下で結論を急ぎすぎたように思う。冷静になれば、やはり不便な場所では市民生活の利に合わないし、都市公園法上の問題もある。
3. 津波避難ビルを兼ねて現在地がベストだが、交付税措置額上のデメリットがあるとすれば、敷根民有地案でもやむを得ない。
4. 新図書館は、市役所とは目的、機能が異なることから別に新たな場所がよしい。
5. この公募意見はあくまで参考資料であって、議会で決定すべき事項である。

#### 意見 85

市民の負担をできるだけ最小限にし、なお、安全性・利便性を考えると敷根の場所なのかなと思います。色々どこが良いか考えてみましたが適切な場所は難しく、やはり敷根が良いのではと思います。反対の人達は、ただ反対・反対（安全性）と言うのではなく、負担が大きくなることについてどう考えているのか、もっときちんとした回答をもらい、理解してもらった方が良いと思います。図書館について、メディカルセンターの広大な敷地の一角を工夫して使えないでしょうか。小学校に近く歩いて行ける場所（子供が歩いて自力で行ける距離）に、児童館的な機能を兼ねた施設、休日など子供達が家でゲームやテレビに頼らない様な、安全で健康的な遊びができる場所ができたら良いと思います。

#### 意見 86

新庁舎建設候補地について  
緊急防災・減災事業債が適用され建設費用の実質負担が最も少なく、尚且つ市民にとって利便性が良「敷根民有地案」に賛成します。  
津波に対する安全性では敷根公園案はメリットがあるが、車を持たない者にとっては利便性が非常に悪く、これは当初からの課題であるが、路線バスの拡充など庁舎建設費用以外に見えない部分での経費の増加が懸念されます。  
また公園本来の機能を確保するための用地確保も莫大な費用を必要するのではないだろうか。  
敷根公園案は交通手段の整備費用や公園改修費用、駐車場整備費用という支出が増えるというデメリットの方が多いいと思います。  
新庁舎と図書館併設について  
庁舎に訪れる者と図書館に訪れる者は、それぞれ目的が異なります。  
目的が異なる施設を無理やり併設すること事態に無理があり、図書館の建設場所については再検討されては如何でしょう。

#### 意見 87

新庁舎の候補地については、工事費、交付税、借入額、安全性等の比較から、4案のうち市案の「敷根地域」が良いと思います。

今後の人口減、それに伴う税収の落ち込み等を考えれば、多額な借入は今後の市民にとって大きな負担となり、ゆくゆくは市の行政サービス低下にも繋がっていきます。

集会は、市民の意見を聞くだけでなく、行政が時間を掛けて検討し「よし」としたことを、自信をもって市民に説明、説得する場でもあります。

一番大事な点はどこか、そこに焦点を絞って市民に危機意識を抱かせることも肝要かと思います。

観光で押し進んできた市にとって、図書館は貴重な教育施設です。

どのような図書館にするのか、その辺りがもっと議論されて良いと思います。

短大1校もない下田市です。

市民の文化レベルを引き上げるには、どのような図書館が良いのか。

併設か別個かも含めて、検討する必要があると思います。

#### 意見 88

新庁舎の位置は現在地及び下田駅周辺が市街地との繋がりや交通の利便性、将来の市町の合併を考えると適地だと思いますが、津波浸水想定区域内であるために建物の構造上、耐震のうえに更に津波に対する構造も必要となり建設費が高く、補助金の対象外であることから現在の下田市の財政では厳しいと思います。

また、敷根公園案については、市街地との繋がりが無い事、都市計画の変更、庁舎建設によるグラウンドの再整備、職員用駐車場の造成工事等、補助金の対象となっても建設費が高く、また時間的にも補助金申請に間に合わないと考えます。

敷根の民有地については、景観、利便性、市街地との関係を考えてしまうところもありますが、津波浸水想定区域外で補助金対象となりえる事、下田市の一般財源負担が2.5億円で、ほかの3案に比べてもっとも財政負担が少ないことなどを考えると、消去法で「敷根の民有地」が適地であろうと考えます。

そして、市庁舎建設への財源負担が軽減された分を下田のまちづくりに回していただきたいと思います。

少子高齢化が叫ばれる中、少子化対策には市内経済の活性化が不可欠であり、若者が起業できるような取組みや地場商品の開発等に、民間をバックアップできるような行政の施策を考えて頂きたいと思います。

それから、先日の説明会で庁舎に図書館を併設するとの説明がありましたが、庁舎と図書館は利用目的が違う施設であることから、前述した財政上のことと矛盾してしまいましたが、図書館は別の場所に建設したほうが望ましいと思います。

最後に、庁舎問題を早く決着して、民間と一緒に下田のまちづくりにがんばりましょう。

#### 意見 89

多くの方が高い関心を持たれている「市役所建て替え問題」について、市長をはじめ職員の皆様も熟考を重ねられている事と存じます。

地域住民として、また皆さまに支えられて商売を続けてきた者として、市役所に対する思いを記させていただきます。

東日本大震災の甚大な被害を目の当たりにして、全国で“高台へ”との意見が主流となっているようですが、先般、3・11の福島で被災された危機管理の方のお話を聞く機会にあたり、例え高台に建物を移しても、完全に安全な場所などはないという意見でした。

8月の広島で発生した土砂災害にしても、「その時、何処にいるか」で昼夜を問わず、建物のみを「安全だと思ふ」場所に移しても、いつ起きるであろう災害に備えるより、平穩であるはずの日常を円滑に送るべく、住民の使用頻度の高い公共施設は利便性の良い場所にあるのが必須であると考えます。

文化会館での説明会にも参加しましたが、浸水域際ではあるにせよ、行政としても補助金申請の範囲内であり、後世に受け継がれる債務を少しでも軽減したい意向も見受けられます。

現在推進されている“敷根・民有地”は、下田市行政が行政判断に民意を組み入れて、最善の場所を選択されたと理解しております。

既存の敷根グラウンドの場所に庁舎を移転しても、それに伴うインフラ整備のコストや、各種スポーツの公式競技が開催出来るグラウンドに整備し直す支出を考えると、概算で上げられた費用は現実的に大幅に高くなるのではないのでしょうか？

人口の減少や少子高齢化、納税額も目減りしていくであろう将来に、少しでも市民の負担を減らし、その中で最善の判断で市役所移転を推し進める決断に理解を示すには十分であると思います。

“街づくりは人づくり”であり、ハードばかりに目を奪われては本末転倒であり、人の持つ潜在意識の高さや防災に対する備えの日々の積み重ねは、この先も向上するものと考えます。

現在の市役所跡地となる場所についても、東本郷近隣の皆様の災害防災に対する一助となり得る構造物が出来るならば一層ありがたく、同時に地元商店や地域の活性化に繋がる施設が望ましく、安全でコストを抑えた建築技術で、革新的な新庁舎が出来ることを期待しております。

当初見込まれていた図書館の併設については別棟(庁舎とは別の場所)とし、近年の読書(活字)離れを憂いな

がらも、視聴覚施設や人々の憩いの場であり交流が図れる場所が再興できればありがたいです。  
楠山市長をはじめ、下田市役所職員の皆様の意見を支持尊重致します。  
是非、立派な庁舎建設、移転を期待しております。応援しております。

#### 意見 78 から 89 に対する考慮結果等

ご意見を踏まえて、今後計画を推進いたします。

近年の図書館建設につきましては、単独館は少なくなっており、例えば 2008 年に建設された公共図書館 30 館の約 70%にあたる 22 館が市庁舎等との複合館となっております。

その要因としましては、共用スペースの共有化による建設経費の削減等があります。

また、費用面だけでなく庁舎との合築による業務の効率化や市民サービスの向上につきましても、合築のメリットを生かした方策を検討していきます。

図書館の建設位置につきましては、来館者用駐車スペースが 3 ～ 4 台分しかない現在地（四丁目）よりも駐車場があれば郊外でも良いというご意見もあります。

また、蔵書の中には歴史的価値の高い資料等もあり、これらのものを津波から守る必要性もありますことをご理解いただきたいと思います。

図書館につきましても、現状規模の部分に関しましては津波浸水想定区域外に建設すれば緊急防災・減災事業債が適用されます。

また、図書館機能の範囲内で、児童のためのお話会が開催できる部屋、幼児が絵本を読むためのスペース等児童が過ごせる場所としての配慮を考えております。